

第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」
令和4年度点検・評価報告書(正式版)
令和5年度進捗管理報告書

令和5年7月

千葉県スポーツ・文化局生涯スポーツ振興課

目次

はじめに 本報告書の趣旨	1
1 第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」基本指標 進捗管理表	2
2 第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」基本指標 目標達成率	3
3 基本指標の達成度・実績の推移について	
A-1 ～ A-6	5～9
B	10
C-1 ～ C-1	11～12
D-1 ～ D-7	13～15
E-1 ～ E-2	16
F-1 ～ F-3	17～19
4 各施策に係る具体的な取組の進捗について	
リンクA 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上	21
リンクB 人生を豊かにするスポーツの推進	25
リンクC 誰もがともに楽しめるパラスポーツの推進	27
リンクD スポーツ環境の整備・充実	29
リンクE 競技力の向上とクリーンでフェアなスポーツの推進	33
リンクF スポーツの価値の発信とスポーツによる地域づくり	37

はじめに 本報告書の趣旨

<趣旨>

本報告書は、第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」に掲げた目標の達成に向けて、計画期間（令和4年度～令和8年度）に実施する重点的な取組について、主な施策の実施状況を示すことにより、実効性を高めながら計画的な事業推進に反映させていくためのものです。

各施策の実施状況については、「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」の結果や千葉県スポーツ推進審議会委員からの意見を踏まえて、毎年度、点検・評価を行い、取組内容等の見直しを図ります。

<点検評価の対象>

点検・評価の対象は、第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」に掲げられた6つのリンクを実行するための重点的な取組に位置づけて実施した主な施策・事業とします。

<点検評価の方法>

第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」には、施策ごとに基本指標（目標項目）が掲げられています。施策ごとの基本指標（目標項目）の中には、「県民の運動・スポーツに関するアンケート調査」の調査項目を盛り込み、その基本指標の達成状況を参考としながら、施策・事業等の実績を明らかにするとともに課題を分析し、今後の取組について対応を検討します。

<県民の運動・スポーツに関するアンケート調査>

本調査は計画の実現に向け、県民のスポーツニーズを継続的に調査し、計画の進捗状況を把握するとともに今後の事業推進に伴う基礎資料を得るために、各地域の成人及び児童・生徒を対象に実施するものです。アンケートにご回答いただく母集団の実態（成人や児童・生徒、障害のある方の総数及び内訳等）は毎年度に変化しますが、可能な限り多くの県民にご回答いただくことで、調査結果の信頼性確保に努めます。

1 第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」基本指標 進捗管理表

関連リンク	関連施策	基本指標		現状	進捗					目標値
				3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	
A 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上	1 幼児期における運動遊びの充実	休日の運動遊び実施率	幼児	44.9 %	46.7 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	65.0 %	
	2 学校体育活動の充実	体育の授業が楽しいと感じる割合	小学5年	88.7 %	85.5 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	95.0 %	
			中学2年	85.9 %	83.4 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	90.0 %	
	3 児童生徒の体力の向上	新体カテスト平均点	小学生	47.3 点	47.3 点	0.0 点	0.0 点	0.0 点	50.0 点	
			中学生	45.1 点	45.0 点	0.0 点	0.0 点	0.0 点	50.0 点	
			高校生	51.8 点	51.1 点	0.0 点	0.0 点	0.0 点	55.0 点	
	4 スポーツライフの基盤となる運動部活動の充実	運動部活動満足度	中学校	78.6 %	68.2 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	80.0 %	
			高等学校	71.1 %	69.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	75.0 %	
	5 心身の健全な発達に向けた食育の推進	担任と栄養教諭・学校栄養士がTTで授業を実施した割合			52.1 %	60.8 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	80.0 %
		朝食を食べない割合	小学5年	3.1 %	2.2 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	
中学2年	5.1 %		3.2 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %			
B 人生を豊かにするスポーツの推進	1 ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進	週1回程度のスポーツ実施率	全体	62.5 %	56.7 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	70.0 %	
			18～39歳	64.0 %	52.9 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	70.0 %	
	40～59歳		58.1 %	51.9 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	65.0 %		
	60歳～		81.4 %	77.5 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	経年増加 %		
2 多様化するスポーツライフの充実・発展										
C 誰もがとにも楽しめるパラスポーツの推進	1 パラスポーツの推進	パラスポーツの観戦・体験	成人	44.9 %	55.1 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	50.0 %	
	2 パラアスリートへの強化・支援の推進	パラリンピック競技日本代表者数		45 人	33 人	0 人	0 人	0 人	50 人	
D スポーツ環境の整備・充実	1 人材の育成	公認スポーツ指導者数		920 人	902 人	0 人	0 人	0 人	1,000 人	
		障害者スポーツ指導者数		814 人	890 人	0 人	0 人	0 人	経年増加 人	
	2 施設の整備と有効活用	県立学校体育施設開放事業登録団体数		254 団体	267 団体	0 団体	0 団体	0 団体	経年増加 団体	
		体育施設年間利用者数		656,979 人	858,958 人	0 人	0 人	0 人	1,600,000 人	
	3 誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	総合型地域スポーツクラブ認知度		16.0 %	16.7 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	20.0 %	
		総合型地域スポーツクラブ数		86 団体	88 団体	0 団体	0 団体	0 団体	100 団体	
総合型地域スポーツクラブ会員数		20,844 人	18,955 人	0 人	0 人	0 人	24,500 人			
E 競技力の向上とクリーンでフェアなスポーツの推進	国体入賞		7 位	7 位	0 位	0 位	0 位	入賞 位		
	トップ・アスリートの派遣回数		19 回	32 回	0 回	0 回	0 回	95 回		
F スポーツの価値の発信とスポーツによる地域づくり	1 アスリートと連携したスポーツの価値の推進	トップ・プロチームとの連携事業を実施した市町村の割合		79.0 %	79.0 %	0.0 %	0.0 %	0.0 %	100.0 %	
	2 地域資源を生かしたスポーツライフの推進と千葉の魅力発信	スポーツ情報への関心度(県HPのヒット回数)		2,180,000 回	1,960,000 回	0 回	0 回	0 回	経年増加 回	
	3 オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展	競技団体等と連携した学校訪問数		1 回	40 校	0 校	0 校	0 校	100 校	

2 第13次「千葉県体育・スポーツ推進計画」基本指標 目標達成率

基本指標		計画策定時	今年度	前年比	目標値	目標達成率	
		現状(a)	実績値(b)	(b/a×100)	(c)	(b/c×100)	
		3年度	4年度		8年度		
A-1	休日の運動遊び実施率	幼児	44.9 %	46.7 %	104 %	65 %	71.8 %
A-2	体育の授業が楽しいと感じる割合	小学5年	88.7 %	85.5 %	96.4 %	95 %	90.0 %
		中学2年	85.9 %	83.4 %	97.1 %	90 %	92.7 %
A-3	新体力テスト平均点	小学生	47.3 点	47.3 点	100.0 %	50 点	94.6 %
		中学生	45.1 点	45.0 点	99.8 %	50 点	90.0 %
		高校生	51.8 点	51.1 点	98.6 %	55 点	92.9 %
A-4	運動部活動満足度	中学校	78.6 %	68.2 %	86.8 %	80 %	85.3 %
		高等学校	71.1 %	69.0 %	97 %	75 %	92.0 %
A-5	担任と栄養教諭・学校栄養士がTTで授業を実施した割合		52.1 %	60.8 %	116.7 %	80 %	76.0 %
A-6	朝食を食べない割合	小学5年	3.1 %	2.2 %	71 %	0 %	97.8 %
		中学2年	5.1 %	3.2 %	62.7 %	0 %	96.8 %
B	週1回程度のスポーツ実施率	全体	62.5 %	56.7 %	90.7 %	70 %	81.0 %
		18～39歳	64.0 %	52.9 %	82.7 %	70 %	75.6 %
		40～59歳	58.1 %	51.9 %	89.3 %	65 %	79.8 %
		60歳～	81.4 %	77.5 %	95.2 %	経年増加 %	R8評価 %
C-1	パラスポーツの観戦・体験	成人	44.9 %	55.1 %	122.7 %	50 %	110.2 %
C-2	パラリンピック競技日本代表者数		45 人	33 人	73.3 %	50 人	66.0 %
D-1	公認スポーツ指導者数		920 人	902 人	98.0 %	1,000 人	90.2 %
D-2	障害者スポーツ指導者数		814 人	890 人	109.3 %	経年増加 人	R8評価 %
D-3	県立学校体育施設開放事業登録団体数		254 団体	267 団体	105.1 %	経年増加 団体	R8評価 %
D-4	体育施設年間利用者数		656,979 人	858,958 人	130.7 %	1,600,000 人	53.7 %
D-5	総合型地域スポーツクラブ認知度		16.0 %	16.7 %	104.4 %	20 %	83.5 %
D-6	総合型地域スポーツクラブ数		86 団体	88 団体	102.3 %	100 団体	88.0 %
D-7	総合型地域スポーツクラブ会員数		20,844 人	18,955 人	90.9 %	24,500 人	77.4 %
E-1	国体入賞		(R1 7 位	7 位	／ %	入賞 位	R8評価 %
E-2	トップ・アスリートの派遣回数		(R119 回	32 回	168.4 %	累計 95 回	33.7 %
F-1	トップ・プロチームとの連携事業を実施した市町村の割合		79.0 %	79.0 %	100.0 %	累計 00 %	79.0 %
F-2	スポーツ情報への関心度(県HPのヒット回数)		2,180,000 回	1,960,000 回	89.9 %	経年増加 回	R8評価 %
F-3	競技団体等と連携した学校訪問数		— 回	40 校	／ %	累計 00 校	40.0 %

各リンク指標達成状況一覧

達成率	100%	99～90%	89～60%	59～30%	29～0%	未評価
A(11指標)	0	8	3	0	0	0
B(4指標)	0	0	3	0	0	1
C(2指標)	1	0	1	0	0	0
D(7指標)	0	1	3	1	0	2
E(2指標)	0	0	0	1	0	1
F(3指標)	0	0	1	1	0	1
計(29指標)	1	9	11	3	0	5

3 基本指標の達成度・実績の推移について

基本指標について

基本指標	(A-1) 休日の運動遊び実施率
関連リンク	A 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上
関連施策	1 幼児期における運動遊びの充実
施策の目標・方向性	楽しく体を動かす遊びを通して、運動習慣の基盤を作り、運動能力の基礎を培います。 ア 保護者への啓発及び情報提供 イ 指導者（保育者）への研修

基本指標の達成度について

計画策定時現状値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
3年度	4年度		8年度	
44.9	46.7	104%	65.0	72%

<県民の運動・スポーツに関するアンケート調査より>

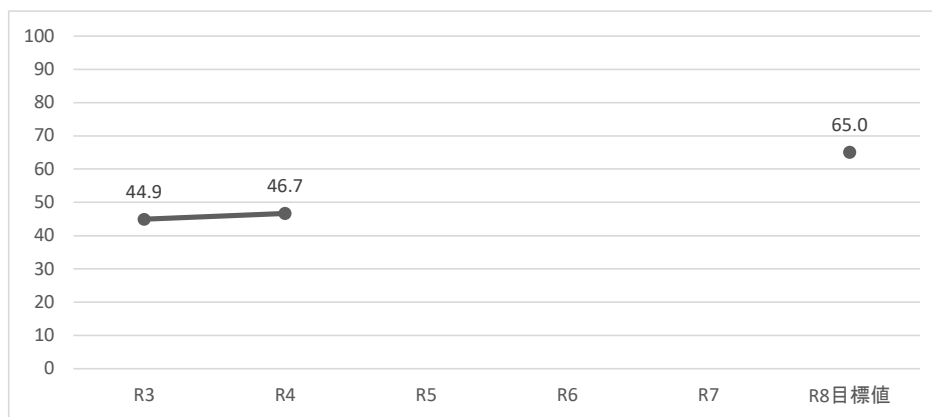
設問：休日にお子様の運動遊びやスポーツをする時間はどのくらいですか。

回答：1時間以上 46.7%（「1～2時間以内」31.8%、「2～3時間以内」9.5%、「3時間以上」5.4%）

1時間未満 48.2%（「30分以内」12.2%、「30分～1時間以内」36.0%）

※無回答等により、合計が100%にならない場合がある（以下、同じ）

実績の推移（令和3年度～令和8年度）



実績 (%)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
休日の運動遊び実施率	44.9	46.7				65.0

総括

指導者（保育者）の理解や資質・能力の向上を図るため、指導者への研修会を実施し、「幼児期運動指針」を活用した運動遊びや活動、園における環境づくり等が行われるよう指導した。

また、幼児教育の質向上及び幼保小接続の円滑化を図るため、総合教育センターに幼児教育アドバイザーを5名配置し、研修会講師及び園への指導・助言等の業務に携わった。

さらに、保護者への啓発・情報発信として、家庭教育リーフレット（幼児版）に身体を動かすことの重要性や基本的な運動の仕方を身につける大切な時期であることを明記して幼児保護者に配布したり、「親力アップ！いきいき子育て広場」のホームページに市町村ごとの地域情報を適宜更新することで、県民へ運動遊びができる施設・講座の情報を周知したりするなど、様々な情報発信を行った。

基本指標は令和3年度より微増となった。上記の情報発信を通じて、幼児期における運動遊びの充実を推進したことが結果につながったと考える。

今後も、保護者への啓発及び情報提供に努めるとともに、指導者（保育者）への研修を推進することを通じて指導者（保育者）の理解や資質・能力の向上を図っていく。

基本指標について

基本指標	(A-2) 体育の授業が楽しいと感じる割合
関連リンク	A 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上
関連施策	2 学校体育活動の充実
施策の目標・方向性	教科体育・体育的活動の指導力の向上及び、個々の発達段階を踏まえた支援の充実と指導内容の明確化を図ります。 ア 体育の授業改善と指導者の指導力向上 イ トップ・プロスポーツの活用 ウ パラスポーツを通じた学校間交流 エ 個々の発達段階に応じた支援の充実と指導内容の明確化

基本指標の達成度について

	計画策定時現状値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
	3年度	4年度		8年度	
小学5年	88.7	85.5	96.4%	95.0	90.0%
中学2年	85.9	83.4	97.1%	90.0	92.7%

<県民の運動・スポーツに関するアンケート調査より>

設問：あなたは「体育の授業」が楽しいと感じますか。

回答：【小学5年】

楽しいと感じる 85.5%（「とても楽しいと感じる」55.8%、「少し楽しいと感じる」29.7%）

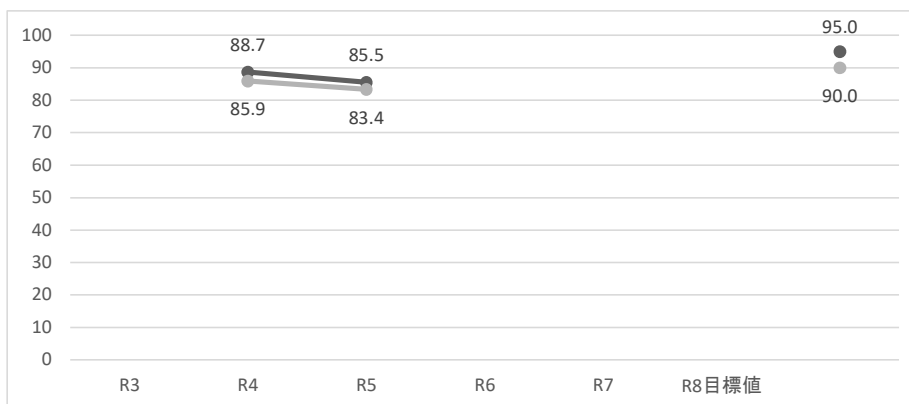
楽しいと感じない 8.4%（「あまり楽しいと感じない」6.5%、「全く楽しいと感じない」1.9%）

【中学2年】

楽しいと感じる 83.4%（「とても楽しいと感じる」47.5%、「少し楽しいと感じる」35.9%）

楽しいと感じない 12.3%（「あまり楽しいと感じない」9.8%、「全く楽しいと感じない」2.5%）

実績の推移（令和3年度～令和8年度）



実績 (%)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
小学5年	88.7	85.5				95.0
中学2年	85.9	83.4				90.0

総括

学習指導計画や体育指導法の改善・充実に資するため、研究大会を11月18日に船橋アリーナ等で開催し、県内より362名の学校体育関係者が参加した。

また、トップ・プロスポーツ団体と連携し、選手・コーチ等を県内の小学校10校に派遣し、スポーツ教室や講演会等を実施した。

基本指標は令和3年度より減少した。児童・生徒に「今後どのようなことがあれば今より体育の授業が楽しくなると思うか」との質問を行ったところ、「自分のペースで運動を行うこと」や「人と比較されないようにしたい」等に多くの回答が見られた。このことから、児童・生徒が「できた」という喜びや達成感を得ることができるようにするとともに、他者と関わって運動することの楽しさや多様な運動の楽しさも感じることができるようになることも必要であると考えられる。

引き続き、授業の工夫・改善や指導力向上に取り組んでいくとともに、トップ・プロスポーツ団体やアスリートによる学校訪問やパラスポーツを通じた学校間交流を推進し、運動への動機づけ、意欲向上を図っていく。

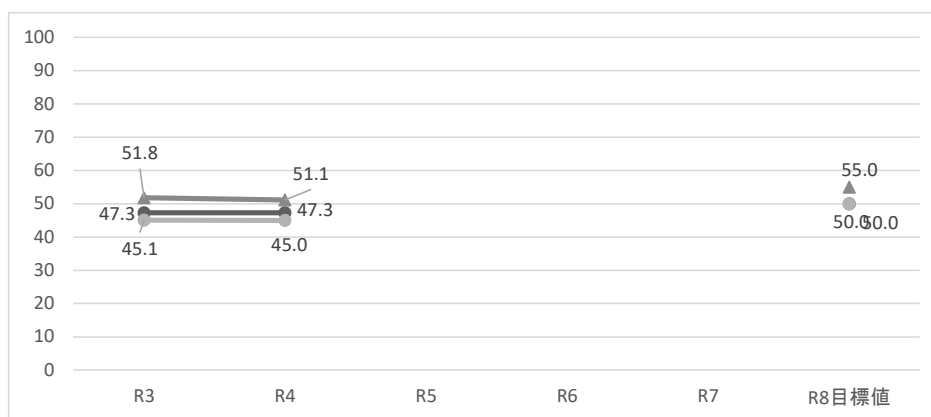
基本指標について

基本指標	(A-3) 新体カテスト平均点
関連リンク	A 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上
関連施策	3 児童生徒の体力の向上
施策の目標・方向性	児童生徒の体力の向上に努めるとともに、運動の習慣化を推進します。 ア 体育の授業改善、教師の指導力向上 イ 児童生徒に対する体力向上の啓発 ウ 運動の日常化

基本指標の達成度について

	計画策定時現状値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
	3年度	4年度		8年度	
小学校	47.3	47.3	100.0%	50.0	94.6%
中学校	45.1	45.0	99.8%	50.0	90.0%
高等学校	51.8	51.1	98.6%	55.0	92.9%

実績の推移 (令和3年度～令和8年度)



実績 (%)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
小学校	47.3	47.3				50.0
中学校	45.1	45.0				50.0
高等学校	51.8	51.1				55.0

総括

児童・生徒の体力の向上を目指して、全8種目の新体カテスト実施し、総合評価A段階の児童・生徒に対する運動能力証の交付、「遊・友スポーツランキングちば」を前・中・後期にかけて実施する等、各事業に取り組んだ。

基本指標は令和3年度と比較して若干減少した。令和4年度の調査は4月から11月にかけて行ったもので、学校生活における活動制限は緩和されていたものの、新型コロナウイルス感染症流行による運動機会の減少等の影響が強く残ったものと考えられる。また、「令和4年度体力・運動能力、運動習慣等調査」によると、運動する子としない子の二極化が進んでいることも原因のひとつと考えられる。

今後は、児童・生徒の体力向上に向けて、体育の授業改善と授業以外の時間での運動機会の設定により、運動の日常化に取り組んでいく。授業改善については、指導計画を工夫して意図的に体力の向上をねらった継続的な取組を取り入れたり、児童・生徒の関心・意欲の喚起に努めたりして、主体的に運動に取り組ませることで運動の日常化を図る。

授業以外の時間での運動機会を設定については、県の事業の1つである、児童生徒が仲間と協力し合いながら運動に取り組む「遊・友スポーツランキングちば」への積極的な参加を奨励し、継続的な運動習慣の構築を図る。

基本指標について

基本指標	(A-4) 運動部活動満足度
関連リンク	A 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上
関連施策	4 スポーツライフの基盤となる運動部活動の充実と在り方の検討
施策の目標・方向性	生徒の興味関心・ニーズに応じた活動及び、地域と連携した部活動の推進を図ります。 ア 地域部活動への段階的な移行 イ 外部指導者の派遣 ウ 講習会等の充実 エ 運動部活動中の事故防止の徹底

基本指標の達成度について

	計画策定時現状値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
	3年度	4年度		8年度	
中学校	78.6	68.2	86.8%	80.0	85.3%
高等学校	71.1	69.0	97.0%	75.0	92.0%

<県民の運動・スポーツに関するアンケート調査より>

設問：あなたは、現在加入している運動部活動や地域のスポーツクラブに満足していますか。

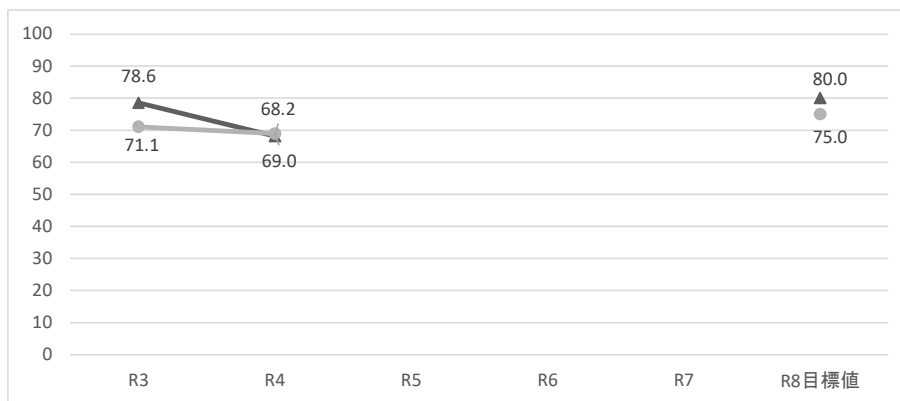
回答：【中学校】

満足している 68.2%（「とても満足している」44.4%、「少し満足している」23.8%）
満足していない 9.8%（「あまり満足していない」6.8%、「全く満足していない」2.9%）

【高等学校】

満足している 69.0%（「とても満足している」40.9%、「少し満足している」28.1%）
満足していない 6.0%（「あまり満足していない」5.1%、「全く満足していない」0.9%）

実績の推移(令和3年度～令和8年度)



実績 (%)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
中学校	78.6	68.2				80.0
高等学校	71.1	69.0				75.0

総括

地域部活動への段階的な移行について、7月と11月に全市町村に対しての説明会を実施し、地域スポーツクラブ活動の運営団体との連携の在り方、費用負担の在り方、課題について県内各地域で共有した。

また、専門的な指導力を備えた外部指導者を県立学校40校に40名派遣するとともに、部活動に係る技術的な指導に従事する部活動指導員を67名配置する等、運動部活動の充実に向けて取り組みを進めた。

基本指標は、中学校及び高等学校とも減少しており、特に中学校については10ポイントの減少が見られた。アンケート調査における満足していない理由が、指導方法や内容への不満(10.5%から18.9%へ増加)や練習時間が長い(12.1%から14.7%へ増加)が上位となっており、指導内容への満足度が低下していると考えられる。

今後は、コロナ禍の部活動を経験した生徒の要望や、部活動に関するガイドライン及び地域移行等の取組に対する生徒の考えなどの実態を把握し、検討していくとともに、生徒のより良いスポーツ環境を整えるため、地域スポーツクラブ活動を推進するとともに、中学校においては部活動指導員の配置を引き続き推進していく。

基本指標について

基本指標	(A-5) 担任と栄養教諭・学校栄養士がTTで授業を実施した割合 (A-6) 朝食を食べない割合
関連リンク	A 子どもの体育・スポーツ活動の充実と体力の向上
関連施策	5 心身の健全な発達を支える食育の推進
施策の目標・方向性	発達段階に応じた食育を推進します。 ア 食に関する指導のあり方についての研修・研究協議 イ 地域と連携した学校給食・食育活動支援 ウ 食育の啓発と情報提供

基本指標の達成度について

	計画策定時現状値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100) ※A-6:100-b
	3年度	4年度		8年度	
(A-5)	52.1	60.8	116.7%	80.0	76.0%
(A-6) 小学5年	3.1	2.2	71.0%	0	97.8%
(A-6) 中学2年	5.1	3.2	62.7%	0	96.8%

<県民の運動・スポーツに関するアンケート調査より>

設問：あなたは普段、朝ごはんを食べますか。(A-6)

回答：【小学5年】

食べる 97.3% (「毎日食べる」83.6%、「食べる日の方が多い」11.0%、
「食べない日の方が多い」2.7%)

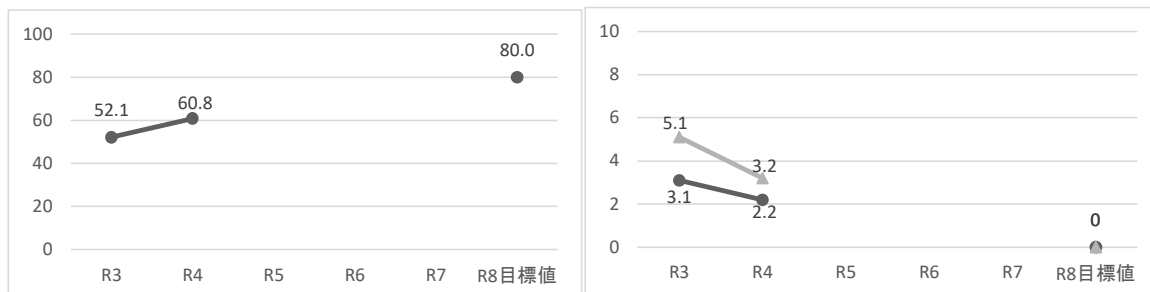
ほとんど食べない 2.2%

【中学2年】

食べる 96.5% (「毎日食べる」79.7%、「食べる日の方が多い」12.1%、
「食べない日の方が多い」4.7%)

ほとんど食べない 3.2%

実績の推移 (令和3年度～令和8年度) 【左：A-5 / 右：A-6】



実績 (%)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
授業実施割合	52.1	60.8				80.0
朝食を食べない割合 (小学5年)	3.1	2.2				0
朝食を食べない割合 (中学2年)	5.1	3.2				0

総括

食育の推進を目的として、栄養教諭・学校栄養職員の悉皆研修や地域における食育指導推進事業を進めるとともに、研修を通じてTTによる授業実践について、参観や意見交換を実施した。また、「食に関する指導事業」では、保健体育課から各教育事務所管内の学校を対象に、食に関する指導の在り方等について説明や情報交換を実施した。さらに、ICTを活用し、教科等における食に関する指導や給食時間における食に関する指導等を行うことで、児童・生徒に食(朝食を含む)の重要性について理解を促した。

A-5の基本指標については、令和3年度の達成度52.1%から8.7ポイント増加し、60.8%であった。目標値80%まで課題はあるものの、今後も継続して研修等を実施し、TTの授業を多くの学校で実践するよう取り組んでいく。

A-6の基本指標については、令和3年度から令和4年度にかけて、小学5年は0.9ポイント減少し、2.2%となった。また、中学2年に関しても、1.9ポイント減少し、3.2%となった。児童・生徒へ食事について正しい理解を深め、健全な食生活を育む判断力や望ましい食習慣を養えるよう、家庭との連携を大切にしながら、学校全体で取り組んでいく。

基本指標について

基本指標	(B) 週1回程度のスポーツ実施率
関連リンク	B 人生を豊かにするスポーツの推進
関連施策	1 ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進 2 多様化するスポーツライフの充実・発展
施策の目標・方向性	1 新しい生活様式でのライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進を図るとともに、高齢者の健康づくり及び介護予防を推進します。 2 日常的に多様なスポーツに親しみ、スポーツ習慣の定着と健康の増進を図ります。 ア 働き盛り・子育て世帯のスポーツの更なる推進 イ 総合型地域スポーツクラブに対する支援 ウ シニア・スポーツの推進 ア 健康ちば21（第2次）の推進に係る各種啓発事業 イ 情報共有システムの構築と情報発信

基本指標の達成度について

	計画策定時現状値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
	3年度	4年度		8年度	
全体	62.5	56.7	90.7%	70.0	81.0%
18～39歳	64.0	52.9	82.7%	70.0	75.6%
40～59歳	58.1	51.9	89.3%	65.0	79.8%
60歳～	81.4	77.5	95.2%	経年増加	R8評価予定

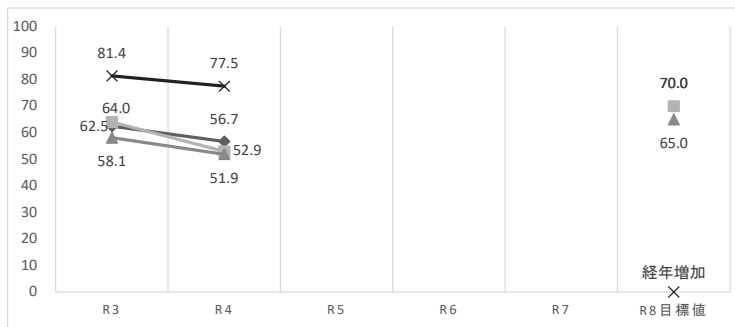
<県民の運動・スポーツに関するアンケート調査より>

設問：この1年間に運動やスポーツ（軽い体操やウォーキング等を含む）をどの程度行いましたか。

回答：

- 【全体】週1回程度 56.7%（「週に3回以上」28.4%、「週に2回」14.7%、「週に1回」13.6%）
週1回以下 35.9%（「月に1～3回程度」12.8%、「3か月に1～2回」7.1%、
「年に1～3回」7.3%、「まったくしなかった」15.4%）
- 【18～39歳】週1回程度 52.9%（「週に3回以上」23.2%、「週に2回」14.8%、「週に1回」14.9%）
週1回以下 50.2%（「月に1～3回程度」14.1%、「3か月に1～2回」8.3%、
「年に1～3回」8.8%、「まったくしなかった」15.4%）
- 【40～59歳】週1回程度 51.9%（「週に3回以上」24.8%、「週に2回」13.1%、「週に1回」14.1%）
週1回以下 47.6%（「月に1～3回程度」13.7%、「3か月に1～2回」8.0%、
「年に1～3回」7.9%、「まったくしなかった」18.0%）
- 【60歳～】週1回程度 77.5%（「週に3回以上」47.5%、「週に2回」19.7%、「週に1回」10.3%）
週1回以下 21.2%（「月に1～3回程度」8.2%、「3か月に1～2回」2.7%、
「年に1～3回」3.4%、「まったくしなかった」6.9%）

実績の推移（令和3年度～令和8年度）



実績 (%)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
全体	62.5	56.7				70.0
18～39歳	64.0	52.9				70.0
40～59歳	58.1	51.9				65.0
60歳～	81.4	77.5				経年増加

総括

様々な世代がスポーツに親しむことができるよう、10月を「スポーツ推進月間」として県内7か所
親子体験イベントを実施して親子でのスポーツ機会の創出や、神奈川県で開かれた「ねんりんピック」に
本県選手206名を派遣してシニアスポーツの推進を行った。また、県民だよりや千葉県ホームページ、
SNSなどを活用し、スポーツや健康増進に関する情報発信に努めた。

指標となる成年の週1回程度のスポーツ実施率は56.7%であり、令和3年度より5.8ポイントの
減少となった。なお、スポーツ庁による全国調査（R4.2.25発表）の実績（56.4%）とほぼ同等と
なった。

減少した要因としては、アンケート調査において、成人の3割が新型コロナウイルス感染症が流行して
から運動・スポーツを実施する頻度が減ったと回答していることから、新型コロナウイルス感染症流行に
よる運動機会減少の影響が残っていると考えられる。年代別に見ると、40代の働き盛り世代で最も実施
率が低かった。

今後、ライフステージに合わせた運動機会の創出を周知していくとともに、働き世代のスポーツの更なる
推進を図るなど、県民のスポーツ活動を支援していく。また、スポーツの実施環境について、性別や年
齢に応じた普及啓発や環境整備を行っていく。

基本指標について

基本指標	(C-1) パラスポーツの観戦・体験
関連リンク	C 誰もがともに楽しめるパラスポーツの推進
関連施策	1 パラスポーツの推進
施策の目標・方向性	パラスポーツを通じた共生社会へ向けての環境づくりを推進します。 ア 共生社会に向けたアプローチの推進 イ パラスポーツ参画人口の拡大 ウ 障害のある人がスポーツに親しみやすい環境整備の推進

基本指標の達成度について

計画策定時現状値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
3年度	4年度		8年度	
44.9	55.1	122.7%	50.0	110.2%

<県民の運動・スポーツに関するアンケート調査より>

設問：あなたは、これまで過去一度でもパラスポーツを体験したことがありますか。

回答：体験したことがある 13.5% 体験したことがない 83.1%

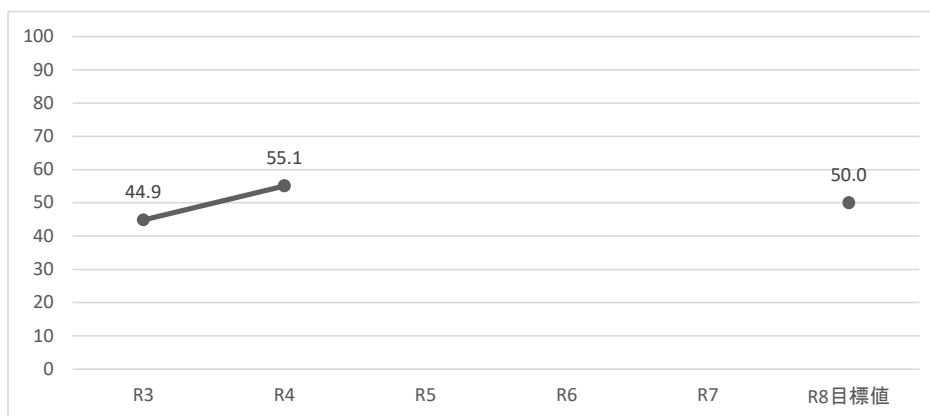
設問：あなたは、これまで過去一度でもパラスポーツを観戦したことがありますか。

回答：観戦したことがある 50.9%

(「実際に観戦したことがある」4.9%、「TV、ネット中継等で観戦したことがある」45.9%)

観戦したことがない 42.3%

実績の推移(令和3年度～令和8年度)



実績 (%)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
パラスポーツの観戦・体験率	44.9	55.1				50.0

総括

新規事業として、県内の小中学校計18校において「パラアスリート等学校訪問事業」を実施し、延べ1,370名の児童・生徒が参加した。体験競技として、パラバレーボール(座位)、車いすバスケットボール、車いすラグビーの3競技からいずれかを実施した。今後は、特別支援学校にも拡充し、地域の方とともに実施することで、パラスポーツを通じた障害の理解促進につなげていく。

また、9月に千葉ポートアリーナで「パラスポーツフェスタちば」(15競技・延べ3,231名参加)、12月にキッコーマンアリーナで「パラスポーツフェスタとうかつ」(5競技・延べ597名参加)を開催し、県民がパラスポーツを体験する機会を創出した。

指標となるパラスポーツの観戦・体験率は令和3年度と比べ、約10ポイント増加した。令和3年(2021)に東京2020パラリンピック競技大会が開催され、県民のパラスポーツに対する関心が高まったこと、学校訪問やイベント等の事業を通じてパラスポーツに触れる機会が増えたことが、観戦・体験率の増加に結びついたと考えられる。

今後は、パラスポーツ普及・啓発用の映像及びリーフレットの配布やパラスポーツフェスタをはじめとする体験会の広報等、様々な情報発信を通じて、県民のパラスポーツに対する理解を深めるとともに、障害のある人のパラスポーツに取り組む意欲の喚起を図っていく。

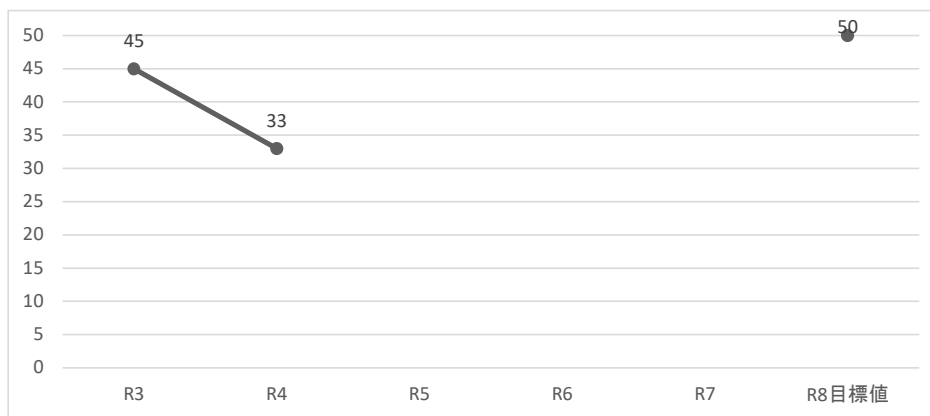
基本指標について

基本指標	(C-2) パラリンピック競技日本代表者数
関連リンク	C 誰もがとにも楽しめるパラスポーツの推進
関連施策	2 パラアスリートへの強化・支援の推進
施策の目標・方向性	パラアスリートの発掘・育成及び環境整備、競技力向上への支援に努めます。 ア パラ競技組織の体制整備の推進及びパラスポーツ選手の掘り起こしと育成 イ パラアスリートの競技力強化の推進

基本指標の達成度について

計画策定時現状値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
3年度	4年度		8年度	
45	33	73.3%	50	66.0%

実績の推移 (令和3年度～令和8年度)



実績 (人)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
パラリンピック競技 日本代表者数	45	33				50

総括

千葉県ゆかりのパラアスリート等を指定し、継続的な競技力の向上を目指し、パラリンピック出場に向けた強化活動に対する取組へ助成を行うとともに、パラスポーツの振興、普及啓発活動のため障がい者スポーツ協会と連携し、支援体制の強化や有望選手の掘り起こしを行った。また、競技人口の増加を目的として、県内計16団体の障害者スポーツ競技団体が行う体験会に対する費用助成を行った。

指標として、パラリンピック競技の中央競技団体(NF)強化指定選手のうち、令和4年度千葉県競技力向上推進本部事業において強化指定した選手数を実績値としているが、令和3年度から12名減少した。これは新型コロナウイルス感染症の影響により、各種大会への出場を断念した選手がいたことや、選手選考の位置づけとしていた大会等が中止となり、選手選考を実施できなかった競技団体も一部あったことが、減少要因のひとつであると捉えている。

令和5年度は2024年パリ大会に向けて、代表選考のための国際大会等への参加増が見込まれるため、千葉県ゆかりのパラリンピックアスリートの強化活動に対しての支援人数を増員する見通しである。

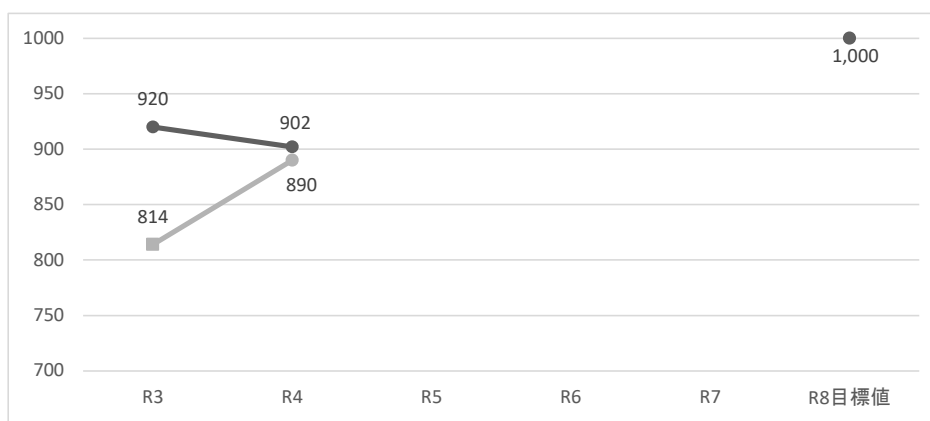
基本指標について

基本指標	(D-1) 公認スポーツ指導者数 (D-2) 障害者スポーツ指導者数
関連リンク	D スポーツ環境の整備・充実
関連施策	1 人材の育成
施策の目標・方向性	スポーツ指導者の養成と指導力の向上、指導者の有効活用を推進します。 ア スポーツ指導者の養成・資質の向上 イ 表彰制度の活用

基本指標の達成度について

	計画策定時現状値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
	3年度	4年度		8年度	
公認スポーツ指導者数	920	902	98.0%	1,000	90.2%
障害者スポーツ指導者数	814	890	109.3%	経年増加	R8評価予定

実績の推移 (令和3年度～令和8年度)



実績 (人)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
公認スポーツ指導者数	920	902				1,000
障害者スポーツ指導者数	814	890				経年増加

総括

地域のスポーツ指導者を養成するため、生涯スポーツ公認指導者養成講習を6回実施し、指導員4名、スポーツリーダー12名を養成した。また、初級障害者スポーツ指導者養成講習会を2回実施し、障害者スポーツ指導者、計66名を養成した。

指標について、公認スポーツ指導者数は少し減少した。高齢等を理由とする非更新者数が新規獲得者数を上回ったことが原因と推察される。一方、障害者スポーツ指導者数は増加した。

また、指導者の功績をたたえ、更なる活躍につながるよう、「体育・スポーツ功労者等顕彰表彰」において、県功労者21名、優良団体13団体、優秀スポーツ選手個人126名・27団体、特別功労賞1名を推薦した。そのうちパラスポーツ部門では、個人28名、団体27団体が初めて推薦された。

令和5年度も更なる指導者確保・指導者の質の向上を目指し、講習の受講者数を増やしていけるようホームページ等を通じて情報発信に取り組んでいく。

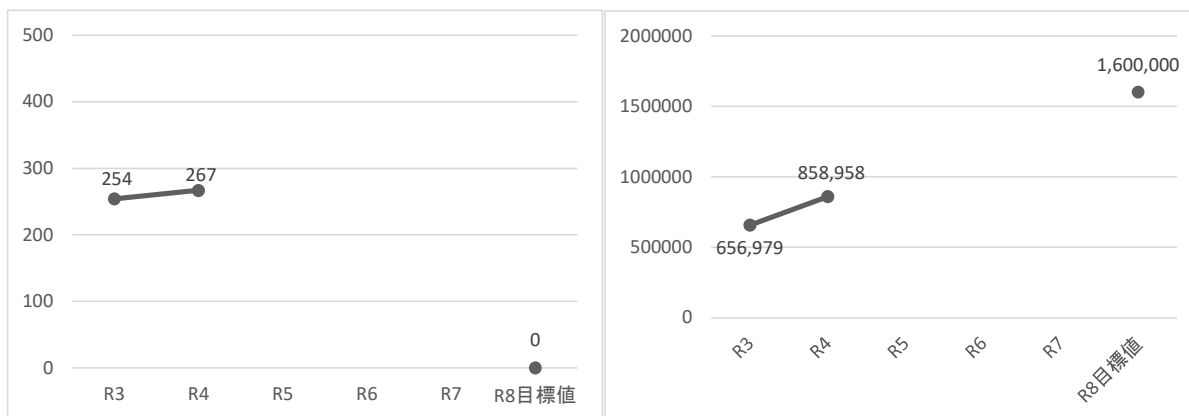
基本指標について

基本指標	(D-3) 県立学校体育施設開放事業登録団体数 (D-4) 体育施設年間利用者数
関連リンク	D スポーツ環境の整備・充実
関連施策	2 施設の整備と有効活用
施策の目標・方向性	耐震化・バリアフリー化の推進と老朽化施設の再整備・機能向上を図り、安全安心にスポーツができる環境を提供するとともに、県立学校体育施設の有効活用を推進します。 ア 施設・設備の整備と有効活用

基本指標の達成度について

	計画策定時現状値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
	3年度	4年度		8年度	
登録団体数	254	267	105.1%	経年増加	R8評価予定
年間利用者数	656,979	858,958	130.7%	1,600,000	53.7%

実績の推移（令和3年度～令和8年度）【左：D-3／右：D-4】



実績 (人)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
県立学校体育施設開放事業登録団体数	254	267				経年増加
体育施設年間利用者数	656,979	858,958				1,600,000

総括

総合スポーツセンター庭球場クラブハウスの整備は、令和5年1月末に解体工事が完了し、令和5年2月から新築工事に着手している。
 現在、利用を休止している体育館は、本県の競技力向上の拠点となるスポーツ施設として令和10年度中の供用開始に向け整備を進めており、令和5年3月から基本設計に着手している。
 令和3年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の為に一部施設の利用制限を行っていたが、令和4年度は利用制限を緩和したため、県立体育施設の年間利用者数は増加し、総合スポーツセンター471,756人、総合スポーツセンター射撃場3,715人、総合スポーツセンター東総運動場77,180人、国際総合水泳場306,307人となった。

基本指標について

基本指標	(D-5) 総合型地域スポーツクラブ認知度 (D-6) 総合型地域スポーツクラブ数 (D-7) 総合型地域スポーツクラブ会員数
関連リンク	D スポーツ環境の整備・充実
関連施策	3 誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展
施策の目標・方向性	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展を図ります。 ア 総合型地域スポーツクラブに対する支援 イ 情報共有と発信の推進 ウ 体育・スポーツ関係団体との連携・協同

基本指標の達成度について

	計画策定時現状値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
	3年度	4年度		8年度	
認知度	16	17	104.4%	20	83.5%
クラブ数	86	88	102.3%	100	88.0%
クラブ会員数	20,844	18,955	90.9%	24,500	77.4%

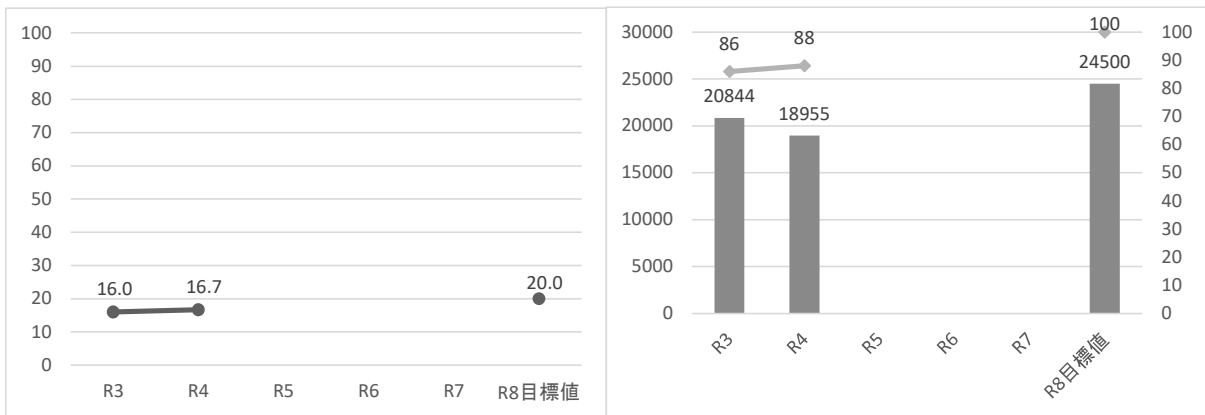
<県民の運動・スポーツに関するアンケート調査より>

設問：あなたは「総合型地域スポーツクラブ」について知っていますか。

回答：知っている 16.8%

(「クラブに所属している」2%、「知っている」5.7%、「少し知っている」9.1%)
知らない 79.7%

実績の推移（令和3年度～令和8年度）【左：D-5／右：D-6、7】



実績 (%/人)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
総合型地域スポーツクラブ認知度	16.0	16.7				20.0
総合型地域スポーツクラブ数	86	88				100
総合型地域スポーツクラブ会員数	20,844	18,955				24,500

総括

総合型地域スポーツクラブ設立支援のために市町村を訪問するとともに、12月3日に情報交換会を開催し、自立活性化支援を行った。また、千葉県スポーツ協会、千葉県障がい者スポーツ協会をはじめとする各スポーツ関係団体と情報共有を行い、連携を図った。

基本指標について、認知度及びクラブ数は微増、クラブ会員数は減少という結果が見られた。認知度は令和3年度と比べて0.7ポイントの増加であり、年代別に見ると60代の認知度が比較的高い傾向にある。また、クラブ数は2クラブが新規設立となった。一方、クラブ会員数は減少傾向にある。要因としては、会員の高齢化及び新型コロナウイルス感染症流行による運動機会減少の影響が関係していると考えられる。

令和5年度は、新たに普及・啓発用のパンフレット等を作成し、県民が総合型地域スポーツクラブに関する最新の情報を入手できるようにQRコード等を掲載する等の工夫を行い、クラブの認知度向上・新規設立のための支援を図っていく。

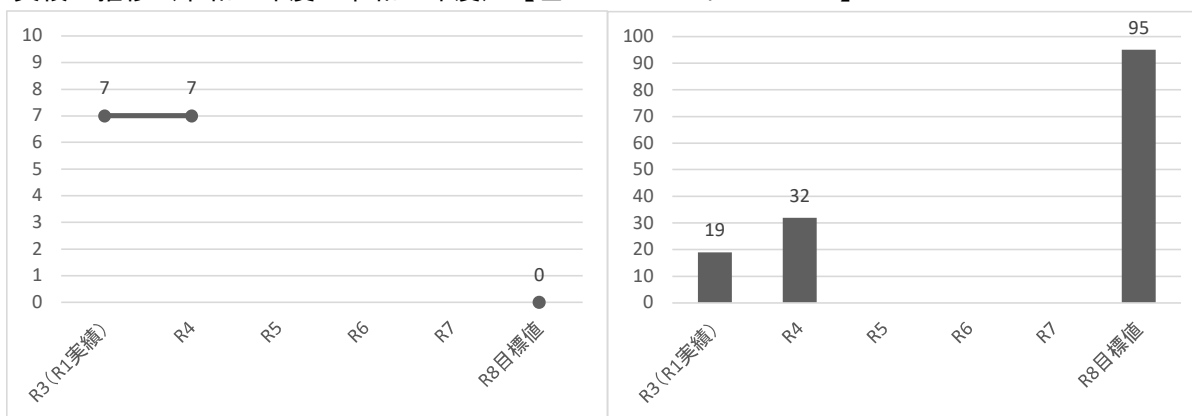
基本指標について

基本指標	(E-1) 国体入賞 (E-2) トップ・アスリートの派遣回数
関連リンク	E 競技力の向上とクリーンでフェアなスポーツの推進
関連施策	1 選手の発掘・育成・強化及び指導者の養成・資質向上 5 競技スポーツの充実及び好循環 等
施策の目標・方向性	個々の選手及びチームの競技力向上を推進します。 各競技会の充実と競技人口の拡大を図るとともに、トップアスリート等の能力活用を推進します。 等 1-ア 国民体育大会入賞に向けた選手強化 1-イ 未来のアスリートの発掘・育成・強化 5-イ トップアスリート等活用事業 等

基本指標の達成度について

	計画策定時現状値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
	3年度 (元年度実績)	4年度		8年度	
国体入賞	7	7	±0	入賞	R8評価予定
トップ・アスリートの派遣回数	19	32	168.4%	(累計) 95	33.7%

実績の推移 (令和3年度～令和8年度) 【左：E-1 / 右：E-2】



実績 (人/回)	R3 (R1実績)	R4	R5	R6	R7	R8目標値
国体入賞	7	7				入賞
トップ・アスリートの派遣回数	19	32				95

総括

県の競技力向上を図り、国民体育大会において男女総合成績入賞、女子総合成績入賞を目指し、本県国体代表チーム・選手の強化事業を実施した。また、競技力向上と地域スポーツの好循環を創出するため、トップアスリート等活用事業により、オリンピック・パラリンピック選手や国民体育大会等で活躍したトップアスリートを講師として体育・スポーツ関係団体の活動に派遣することにより、選手強化事業の成果を地域スポーツに還元する取組を実施した。

第77回国民体育大会「いちご一会とちぎ国体」では、男女総合成績(天皇杯得点)において獲得点1490.75点で第7位入賞を果たした。しかし、女子総合成績(皇后杯得点)では、獲得点786.5点で第10位と入賞を逃す結果となった。

トップアスリート等活用事業では、派遣回数32回、延べ47名の講師を派遣し、派遣回数は令和3年度実績から大きく増加した。特に小中学校からの希望が多く、児童・生徒は、講演会や特別授業等を通じたトップアスリートとの交流にとっても喜び、教職員からの評価も高く充実した事業となった。

令和5年に開催される特別国民体育大会では、男女総合成績(天皇杯得点)及び女子総合成績(皇后杯得点)で入賞を果たせるよう、本県競技力の向上を図るとともに、県内トップアスリート等のスポーツ資源の還元に取り組んでいく。

また、クリーンでフェアなスポーツの推進と、スポーツ・インテグリティの推進・促進のため、国民体育大会出場選手・監督を対象とした、アンチ・ドーピング研修・講習会を実施した。

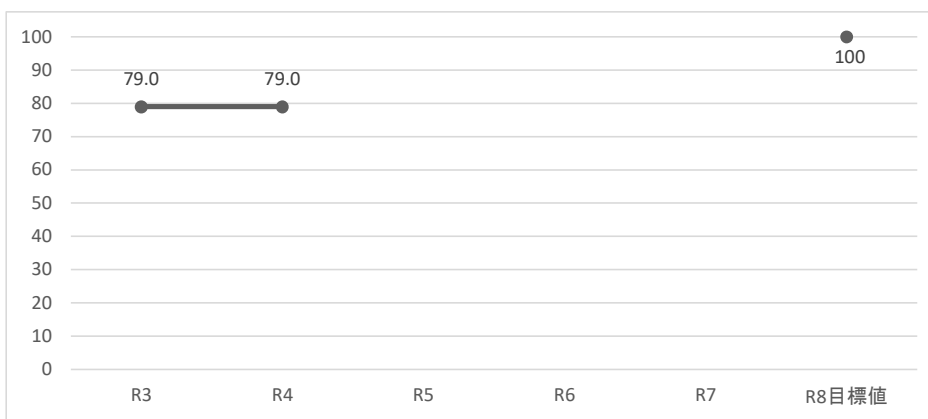
基本指標について

基本指標	(F-1) トップ・プロチームとの連携事業を実施した市町村の割合
関連リンク	F スポーツの価値の発信とスポーツによる地域づくり
関連施策	1 アスリートと連携したスポーツの価値の推進
施策の目標・方向性	知るから広がる「する・みる・ささえる」スポーツの更なる推進を図ります。 ア トップ・プロスポーツ活用連携事業 イ トップ・プロスポーツ連絡協議会

基本指標の達成度について

計画策定時現状値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
3年度	4年度		8年度	
79.0	79.0	100.0%	100.0	79.0%

実績の推移（令和3年度～令和8年度）



実績 (%)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
トップ・プロチームとの連携事業を実施した市町村の割合	79.0	79.0				100

総括

トップ・プロスポーツチームと連携し、県内在学の小学生を公式戦へ招待する「ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト」を実施し、計66,400名を招待した。また、選手やコーチを県内小学校へ派遣する「ちば夢チャレンジかなえ隊」派遣事業を実施し、9チームが10校を訪れ、計986名が参加した。

指標であるトップ・プロチームとの連携事業を実施した市町村の割合は、令和3年度から横ばいであったが、「ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト」の参加人数は令和3年度が22,074名、令和4年度が66,400名で、「ちば夢チャレンジかなえ隊」の参加人数は令和3年度が600名、令和4年度が986名で、どちらも増加している。

令和5年度は、「ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト」の参加対象を小学生から小・中・高校生へ拡充し、「ちば夢チャレンジかなえ隊」派遣事業の派遣校数を10校から20校に拡充する予定である。

トップアスリートと直に触れ合える貴重な機会であるため事業への参加希望が多く、ニーズの高さが伺えるため、今後も実施地域を広げてスポーツの普及振興に繋げていく。

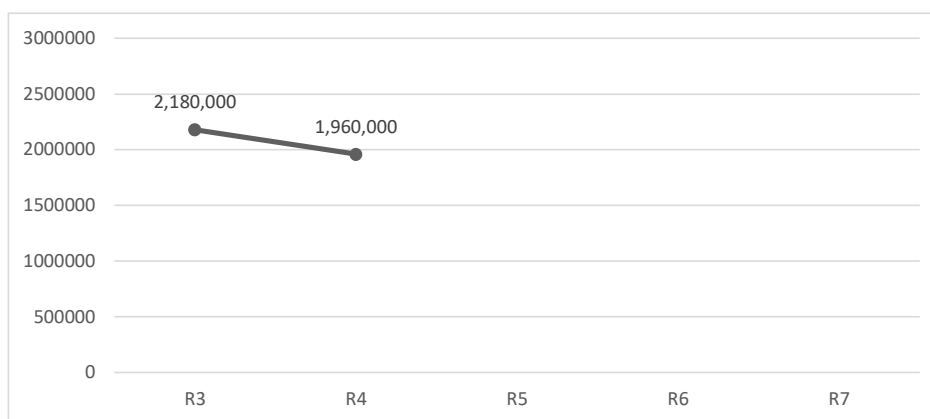
基本指標について

基本指標	(F-2) スポーツ情報への関心度 (県HPのヒット回数)
関連リンク	F スポーツの価値の発信とスポーツによる地域づくり
関連施策	2 地域資源を生かしたスポーツライフの推進と千葉の魅力発信
施策の目標・方向性	地域資源を活用したスポーツの振興とともに、健康づくりや体力向上の機運の醸成と、ライフステージに応じた運動習慣の定着を図ります。 ア 交流機会の創出 イ 積極的な関わりの促進

基本指標の達成度について

計画策定時現状値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
3年度	4年度		8年度	
2,180,000	1,960,000	89.9%	経年増加	R8評価予定

実績の推移 (令和3年度～令和8年度)



実績 (回)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
県HPのヒット回数	2,180,000	1,960,000				経年増加

総括

東京湾アクアラインと新しいまちづくりが進む周辺地域、豊かな農産物を含む田園地帯など、千葉の魅力を盛り込んだコースで、11月6日に「ちばアクアラインマラソン2022」を開催した。公式ホームページやSNSを活用し、積極的に情報発信を行うとともに、ランニングクリニック教室や募集PRイベントを実施した。

大会は天候にも恵まれ、約15,000人のランナーが東京湾アクアライン上を駆け抜けた。また、大会へは地元自治会、企業、学生等から約5,000人のボランティアが参加した。

基本指標は県ホームページにおけるスポーツ情報へのアクセス数であるが、令和4年度に県スポーツ・文化局のホームページを新規に構成し、運動・スポーツ関連コンテンツの統合・整理を行った。スポーツに関する情報を「見つけやすく」・「わかりやすく」提供するため、コンテンツの充実を図り、最新情報が常に提供できるよう更新作業を進めている。

令和5年度は次回の「ちばアクアラインマラソン」開催に向けて、運営方法の検討や大会開催の広報等を実施していく。

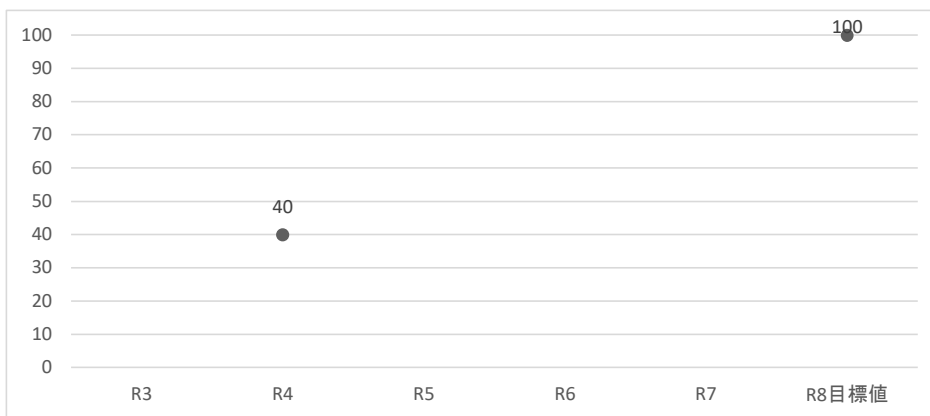
基本指標について

基本指標	(F-3) 競技団体等と連携した学校訪問数
関連リンク	F スポーツの価値の発信とスポーツによる地域づくり
関連施策	3 オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展
施策の目標・方向性	<p>オリンピック・パラリンピックの無形のレガシーを継承するとともに、オリンピック・パラリンピックのレガシーを有効活用した地域の活性化を推進します。</p> <p>ア オリンピック・パラリンピック教育の継承 イ 競技団体等との学校における連携事業 ウ ホストタウン相手国等との国際理解・国際交流の促進 エ マリンスポーツを活用した地域の魅力向上 オ 「新たなスポーツ」の周知・研究</p>

基本指標の達成度について

計画策定時現状値 (a)	今年度実績値 (b)	前年度比 (b/a×100)	目標値 (c)	目標達成率 (b/c×100)
3年度	4年度		8年度	
	40		100	40.0%

実績の推移 (令和3年度～令和8年度)



実績 (回)	R3	R4	R5	R6	R7	R8目標値
競技団体等と連携した学校訪問数		40				100

総括

オリンピック・パラリンピックのレガシーを有効活用し、スポーツを通じて地域活性化を推進するための心のバリアフリー教育推進事業、パラスポーツ推進事業等、様々な事業に取り組んだ。新規事業としては、サーフィンと歴史・文化・食の魅力を組み合わせたスポーツツーリズムのモデルルート作成、「新たなスポーツ」としてバーチャルサイクリングやモルック等の体験会等を実施した。

指標である競技団体と連携した学校訪問数は第13次計画から新規に設定した指標であり、令和8年度までに累積100校を目標としている。今年度は競技団体及び日本オリンピック委員会(JOC)と連携し、県内公立小中学校計40校において学校訪問を実施した。アスリートを講師として招き、体験談を聞いたり、実際に競技を体験したりすることを通じて、児童生徒はスポーツに親しみ、楽しんでいる様子が多く見られた。

今後も様々なスポーツについて学校訪問・体験会・スポーツツーリズム等を通じて知る機会を創出し、普及推進を進めるとともに、スポーツを県民にとってより身近なものとするよう取り組んでいく。

4 各施策に係る具体的な取組の進捗について

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R4決算額(千円)	R5予算額(千円)	担当課	室・班	取組の概要
1	A	1	幼児期における運動遊びの充実	ア	保護者への啓発及び情報提供	家庭教育リーフレットの配付	922	1,007	生涯学習課	学校・家庭・地域連携室	基本的な生活習慣の確立や運動・読み聞かせの重要性等、家庭教育や子育てのポイントをまとめた「家庭教育リーフレット」(幼児版)を作成し、1歳半児健診の場などを活用し、幼児をもつ保護者に配布します。 市町村に、リーフレットを配布する際の活用例を示すとともに、幼稚園・保育所の職員にも周知し、幼稚園・保育所での活用を促進します。
2	A	1	幼児期における運動遊びの充実	ア	保護者への啓発及び情報提供	ホームページでの情報提供	-	-	生涯学習課	学校・家庭・地域連携室	県ホームページの「親力アップ!いきいき子育て広場」で市町村が発信するイベント情報を掲載
3	A	1	幼児期における運動遊びの充実	イ	指導者(保育者)への研修	「幼児期運動指針」を踏まえた指導者(保育者)の研修の推進	5,265	5,282	学習指導課	義務教育指導室	幼児期における運動遊び等について、文部科学省の「幼児期運動指針」を研修において活用し、指導者(保育者)の理解や資質・能力の向上を図ります。
4	A	1	幼児期における運動遊びの充実	イ	指導者(保育者)への研修	幼児教育アドバイザーを活用した研修の推進	4,242	4,493	学習指導課	義務教育指導室	元園長等からなる幼児教育アドバイザーを県総合教育センターに配置し、研修会での講師を務めたり、園へ出向いて指導・助言を行ったりすることで、県全体の幼児教育の質向上や、幼保小接続の円滑化を図ります。
5	A	2	学校体育活動の充実	ア	体育の授業改善と指導者の指導力向上	千葉県学校体育研究大会	100	100	保健体育課	学校体育班	学習指導計画や体育指導法の改善・充実に資するため、研究大会を開催し、学校体育指導上の問題点について研究協議等を行い、体育指導の質的改善を目指します。
6	A	2	学校体育活動の充実	ア	体育の授業改善と指導者の指導力向上	各種研修会	-	-	特別支援教育課	教育課程指導室	特別支援学校体育連盟による研修会を実施し、バラスポーツ・体育の授業内容について、特別支援学校の教師間での研究や専門家からの助言を受けます。
7	A	2	学校体育活動の充実	ア	体育の授業改善と指導者の指導力向上	学校体育研究指定校事業	324	324	保健体育課	学校体育班	学校体育指導の改善・充実に資するため、学校体育に関する教育内容、教育方法等を課題として調査研究を実施します。
8	A	2	学校体育活動の充実	イ	トップ・プロスポーツの活用	ちば夢チャレンジかなえ隊派遣事業	500	1,000	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	体育・スポーツ活動での交流を通じて、広く子どもたちにスポーツの楽しさを体験させることを目的として、県内トッププロスポーツ団体に所属する選手、コーチ等を県内の小中学校へ派遣し、スポーツ教室や講演会等を実施します。
9	A	2	学校体育活動の充実	ウ	バラスポーツを通じた学校間交流	特別支援学校におけるバラスポーツ推進事業	55	500	特別支援教育課	教育課程指導室	特別支援学校教員及び児童生徒が、近隣の小・中学校や高齢者施設等に出向き、バラスポーツを紹介したり、一緒に試合を行ったりすることで、共にスポーツを楽しむ経験を通じた障害への理解を深めます。
10	A	2	学校体育活動の充実	エ	個々の発達段階に応じた支援の充実と指導内容の明確化	特別支援学校におけるバラスポーツ推進事業	267	-	特別支援教育課	教育課程指導室	県立特別支援学校全体でバラスポーツを推進していけるよう、新設校に他校と同程度のバラスポーツ用具の整備を行います。

R4 取組の実績	R4 取組の成果・課題	R5 取組の見通し
・「家庭教育リーフレット」(幼児版)42,000部配布 ・ホームページ掲載	基本的な生活習慣の確立や運動・読み聞かせの重要性等、家庭教育や子育てのポイントをまとめた「家庭教育リーフレット」(幼児版)を作成し、1歳半児健診の場などを活用し、幼児をもつ保護者に配布しました。 市町村に、リーフレットを配布する際の活用例を示すとともに、幼稚園・保育所の職員にも周知し、幼稚園・保育所での活用を今後も促進します。	・「家庭教育リーフレット」(幼児版)42,000部配布 ・ホームページ掲載
・ホームページの適宜更新	県ホームページの「親力アップ！いきいき子育て広場」で市町村ごとの地域情報を更新しました。 年度当初の市町村関連の情報については、特に速やかに更新することで県民への周知に努めます。	・ホームページの適宜更新
幼稚園等初任者研修、中堅教諭等資質向上研修Ⅰ(幼稚園教諭等)、幼児教育アドバイザー育成研修、スマイル先生！若手指導力アップ研修など 「接続期のカリキュラム 千葉県モデルプラン」への室内でも実践できる理系・運動系のモデルプランの追加	幼児期における運動遊びの充実及び指導者(保育者)の理解や資質・能力の向上を図るために、研修会等において「幼児期運動指針」を活用した運動遊びや活動、園における環境づくり等が行われるよう指導しました。 また、室内でも実施できる運動系のモデルプログラムを開発し、県内全ての幼児教育施設に対し、園の実態に合わせて実践することや園内研修での活用について周知しました。	幼稚園等初任者研修、中堅教諭等資質向上研修Ⅰ(幼稚園教諭等)、幼児教育アドバイザー育成研修、スマイル先生！若手指導力アップ研修など 「接続期のカリキュラム 千葉県モデルプラン」への室内でも実践できる理系・運動系のモデルプランの検証
・総合教育センターに5名配置(常勤2名、非常勤3名) ・年間99回の派遣	幼児教育の質向上及び幼保小接続の円滑化を図るために、総合教育センターに配置した幼児教育アドバイザーが、研修会の講師を務めたり、園に向いて指導・助言をおこなったりしました。 令和4年度は、教育事務所訪問への同行要請や、保育所からの派遣要請も新規に増えました。	・総合教育センターに5名配置(常勤2名、非常勤3名) ・年間90回以上派遣見込み
令和4年11月18日(金) 船橋市開催 船橋市立七林小学校 船橋市立行田中学校 県立船橋啓明高等学校	令和4年11月18日に、全体会を船橋アリーナで、分科会を船橋市立七林小学校、船橋市立行田中学校、県立船橋啓明高等学校で行いました。県内より、362名の学校体育関係者が参加し、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善について研究協議することができました。 今年度よりコロナ禍以前の参集型の大会に戻りましたが、例年と比較して参加者が減少しました。教育事務所、市町村教育委員会を通じて、積極的な参加を呼びかけていきます。	令和5年11月10日(金) 松戸市開催 松戸市立八ヶ崎小学校 松戸市立常盤平中学校 松戸市立松戸高等学校
研修会を年2回(8月、2月)開催	授業改善と指導者の指導力向上のため、特別支援学校の教員を対象に、バラスポーツや誰もが楽しめる活動をおとした授業づくりをテーマとした研修会を年2回開催しました。	バラスポーツ・体育の授業力向上
(継続) 長南町立長南小学校 (新規) 松戸市立松戸高等学校	令和4年度で3年間の継続研究を終える長南町立長南小学校は11月に授業公開を行い、東上総教育事務所管内にその研究成果を広めることができました。また、県内へ広く周知するために研究成果の概要を千葉県のホームページにて掲載しました。 今年度より新規で研究指定校となった松戸市立松戸高等学校は、県の準備が遅くなり、松戸市の予算関係の準備が年度当初に間に合いませんでした。今後は、研究終了の前年には輪番の教育事務所へ候補校を事前に打診し、早めに予算を受け入れられるように準備を進めていきます。	(継続) 松戸市立松戸高等学校 (新規) 流山市立東深井小学校
県内の小中学校10校で「ちば夢チャレンジかなえ隊」派遣事業を実施	県内トップ・プロスポーツ団体に所属する選手、コーチ等を県内の小中学校10校へ派遣し、競技種目の特徴やルール、などを知り、プログラムを体験することで、運動のきっかけづくりを創生しました。 課題としては、派遣希望校の倍率が10倍以上あり、ニーズに対応できていない点があるため、令和5年度からは派遣校数を10校から20校に拡大する予定です。	県内の小中学校20校で「ちば夢チャレンジかなえ隊」派遣事業を実施
バラスポーツ推進のための出前授業を5校で実施	県立特別支援学校5校の教員及び児童生徒が、近隣の小・中学校等に出向き、バラスポーツをおとした学校間交流を行いました。今後も出前授業の実施を促進するため、市町村の小・中学校等へ周知していきます。	バラスポーツ推進のための出前授業を拡大し、実施予定
バラスポーツ用具の整備	県立特別支援学校全体でバラスポーツを推進するため、今年度開校した東葛の森特別支援学校に、ポッチャ及びゴールボールの用具を整備しました。今後、交流及び共同学習や地域への貸出し等に活用します。	地域へのバラスポーツ用具の貸出

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R4決算額(千円)	R5予算額(千円)	担当課	室・班	取組の概要
11	A	3	児童生徒の体力の向上	ア	体育の授業改善、教師の指導力向上	体力・運動能力調査の実施	500	500	保健体育課	学校体育班	公立学校(定時制を除く)の全ての児童生徒を対象に、体力・運動能力を調査し、統計分析を行い、体力向上に向けた取組の基礎資料とします。 また、スポーツ庁実施の「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」(県内小学校5年生、中学校2年生対象)の千葉県データを統計分析し、体力・体力向上に向けた取組の基礎資料とします。
12	A	3	児童生徒の体力の向上	イ	児童生徒に対する体力向上の啓発	運動能力証の交付	364	364	保健体育課	学校体育班	体力・運動能力調査に基づき対象者に運動能力証を交付して運動の意欲化を図ります。 (対象者)公立小学校5年から高校生のうち、各年齢の総合評価基準表のA段階の児童生徒。
13	A	3	児童生徒の体力の向上	ウ	運動の日常化	いきいきちばっ子コンテスト「遊・友スポーツランキングちば」の実施	36	36	保健体育課	学校体育班	6つの運動種目を紹介・取組を奨励して、人間関係の構築と運動習慣の定着を図ります。 ランキング1位や取組が積極的な学校などを表彰し、成績をHP等で紹介し、参加意欲の向上を図ります。
14	A	4	スポーツライフの基盤となる運動部活動の充実と在り方の検討	ア	地域部活動への段階的な移行	部活動の地域移行に向けた環境整備事業	3,467	95,714	保健体育課	学校体育班	令和5年度以降の休日の部活動の段階的な地域移行に向けて、地域人材の確保や費用負担の在り方、運営団体の確保などの課題に総合的に取り組みます。令和4年度まではモデル事業による実践研究。令和5年度からは国庫補助金を活用した環境整備と、拠点校による実証事業を展開し、研究成果を普及することで、地域部活動の展開につなげます。
15	A	4	スポーツライフの基盤となる運動部活動の充実と在り方の検討	イ	外部指導者の派遣	スポーツエキスパート活用事業	3,674	4,044	保健体育課	学校体育班	スポーツの楽しさや達成感等を生徒が体験する機会を豊かにし、スポーツに親しむ基礎を培うため、県立学校の運動部活動に専門的な指導力を備えた外部指導者を派遣します。
16	A	4	スポーツライフの基盤となる運動部活動の充実と在り方の検討	イ	外部指導者の派遣	部活動指導員配置事業	14,438	34,000	保健体育課	学校体育班	スポーツ、文化、科学等に関する部活動に係る技術的な指導に従事する部活動指導員を、希望する中学校へ配置します。平成30年度のモデル事業の結果を踏まえ、令和元年度から部活動指導員の正式な配置を行っています。
17	A	4	スポーツライフの基盤となる運動部活動の充実と在り方の検討	ウ	講習会等の充実	中・高等学校運動部活動指導者講習会	32	32	保健体育課	学校体育班	運動部活動指導者の養成及び資質の向上を図るための講習会を実施します。
18	A	4	スポーツライフの基盤となる運動部活動の充実と在り方の検討	エ	運動部活動中の事故防止の徹底	安全で充実した運動部活動のためのガイドラインの活用	-	-	保健体育課	学校体育班	各学校において、運動部活動に対する意識改革を促します。練習時間の在り方や休息の取り方等、多方面から検証した、科学的トレーニングの積極的な導入等により、短時間で効果の得られる合理的かつ効率的・効果的な指導を目指します。
19	A	5	心身の健全な発達を支える食育の推進	ア	食に関する指導のあり方についての研修・研究協議	食に関する指導事業	38	50	保健体育課	給食班	県内5つの教育事務所ごとに、関係職員を対象とした食に関する指導のあり方等の研修を行います。 内容は、「学校における食育の推進(第4次千葉県食育推進計画)」 「アレルギー対応・衛生管理について」説明を行っていきます。
20	A	5	心身の健全な発達を支える食育の推進	ア	食に関する指導のあり方についての研修・研究協議	地域における食育指導推進事業	303	455	保健体育課	給食班	教育事務所ごとに、食育指導推進連絡協議会を設置し、各地区にいる食育指導推進委員である栄養教諭・学校栄養職員が、地域の関係者等を対象とした授業公開や指導助言を行う体制を整え、実施します。また併せて、年3回の全体連絡協議会を推進委員を集めて開催し、実践状況や課題等について協議し、指導力の向上を図ります。

R4 取組の実績	R4 取組の成果・課題	R5 取組の見通し
各校において、4～11月に実施	学校生活における行動制限の緩和等が進み、新体力テストの全8種目に取り組むことができました。 しかし、体力合計点は全国平均を上回っているものの、昨年度と比較すると低下した。まだコロナ禍の影響が強く残っているものと考えられます。	各校において、4月～11月に実施するよう依頼済
交付時期：1月	体力・運動能力調査の結果により、総合評価A段階の児童生徒に対して運動能力証を64,827名交付しました。 交付数に関しては、昨年度(64,774名)と同程度ですが、コロナ禍以前と比較すると減少が顕著でした。	令和5年6月に、各公立学校へ体力・運動能力調査の実施を依頼予定
・実施時期：前期4～6月、中期7～11月、後期12～2月 ・表彰方法：各期において表彰 ・年間申告数：3,278件	昨年度に引き続きコロナ対応版での実施となり、各期大賞、年間大賞は行いませんでした。 体力低下が課題となっていることから、遊・友スポーツランキングちばを広く周知することで、楽しく体を動かす機会を確保していきます。	・実施時期：前期4～6月、中期7～11月、後期12～2月 ・表彰方法：各期及び年間で表彰
<モデル事業> 柏市、袖ヶ浦市、睦沢町、白子町	令和3年度からの取組により、地域スポーツクラブ活動の運営団体との連携の在り方、費用負担の在り方、課題が整理されました。 7月、11月には、全市町村に対して説明会を実施し、県内各地域で課題を共有することができました。 また、本事業の成果として、柏市では令和5年度から全市展開へ、袖ヶ浦市では更なる実施種目の拡大へと繋がりました。 令和5年度は、実証事業として対象市町村を拡充し、より広範囲で地域移行を推進します。	<補助金(R5予算：50,714千円)> 習志野市、流山市、我孫子市、佐倉市、成田市、四街道市、印西市、銚子市、いすみ市、市原市、君津市、富津市 <実証事業(R5予算：45,000千円)> 八千代市、流山市、佐倉市、成田市、山武市、睦沢町、袖ヶ浦市、鴨川市
・派遣校数：40校 ・派遣指導者数：計40人	部活動に所属している生徒が外部指導者から専門的な指導を短期集中または定期的に行うことができました。	・派遣校数：42校 ・派遣指導者数：45人
11市町村へ68名(運動部55名、文化部13名)を配置	令和4年度については、運動部及び文化部で68名の指導員を配置しており、教員の多忙化対策や指導体制の充実において効果が得られています。 各市町村の予算や人材の確保が課題となっています。	16市町村へ112名(運動部92名、文化部20名)を配置予定
・開催日：11月8日(火) ・参加者数：64名 ・講師：山本 利春先生	部活動指導の経験の少ない受講生の先生方が、緊急時対応や応急処置の理論と方法を学ぶことができました。 受講生からのアンケートでは、「是非年度初めに受講したい内容である」という意見が複数あるので、開催時期について考慮していきます。	・開催日：11月7日(火) ・参加者数：100名(予定) ・講師：山本 利春先生
体育主任、関係団体等の会議で周知	体育主任研修会や小中学校体育連盟、高等学校体育連盟、高等学校野球連盟等の会議において、部活動ガイドラインを遵守した活動の徹底について周知をしました。	令和4年度末に通知した「地域全体で子どもたちを育てる学校部活動及び地域クラブ活動のあり方に関するガイドライン」を各種研修会や会議等で周知
・葛南地区(令和4年8月1日) ・東葛飾地区(令和4年10月18日) ・北総地区(令和4年10月28日) ・東上総地区(令和4年10月4日) ・南房総地区(令和4年10月25日)	成果としては、県内5つの教育事務所管内の関係者を集め(南房総教育事務所管内はオンライン形式による協議会)、食に関する指導とアレルギー対応及び衛生管理についての説明を行い、周知を図ることができました。 課題としては、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、招集する人数を制限した形で実施したため、オンライン形式を活用するなどの工夫を検討していきます。	・葛南地区(令和5年8月1日) ・東葛飾地区(令和5年10月13日) ・北総地区(令和5年10月27日) ・東上総地区(令和5年10月17日) ・南房総地区(令和5年10月24日)
16人いる推進委員のうち、8人が授業公開を実施	8人の推進委員が、それぞれの所属先の小中学校で授業公開を実施しました(八千代市、浦安市、松戸市、柏市、印西市、東庄町、九十九里町、市原市)。 各校では、近隣から参観者を募り、食に関する指導を通して実践力向上を図りました。	16人いる推進委員のうち、8人が授業公開を実施予定

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R4決算額(千円)	R5予算額(千円)	担当課	室・班	取組の概要
21	A	5	心身の健全な発達を支える食育の推進	イ	地域と連携した学校給食・食育活動支援	高等学校と連携した食育活動支援事業	601	999	保健体育課	給食班	農業・水産系高等学校を支援校として、支援校のある地域の幼稚園、小学校、中学校、義務教育学校から参加校を選定し、農作業や飼育されている動物と触れ合うなどの体験活動を展開する。また、高校生と園児や小中学生の交流を通して、それぞれの発達段階に応じた千葉県ならではの食育活動を支援します。
22	A	5	心身の健全な発達を支える食育の推進	イ	地域と連携した学校給食・食育活動支援	学校給食における千産千消デーの取組	-	-	保健体育課	給食班	公立学校の給食実施校で「千産千消デー」を設定し、県内・域内地場産物を活用した学校給食を提供するとともに、それを生かした食育を推進します。
23	A	5	心身の健全な発達を支える食育の推進	ウ	食育の啓発と情報提供	(食育の啓発と情報提供)	-	-	保健体育課(安全農業推進課)	給食班(食育推進班)	「食」に関する情報を積極的に保護者に提供し、家庭と連携した食育の推進を図ります。
24	B	1	ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進	ア	働き盛り・子育て世帯のスポーツの更なる推進	「スポーツ推進月間」の実施	350	350	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	働き盛り・子育て世代が、スポーツに親しみ、運動習慣の定着を図るきっかけとなることを目的として、9月から12月を「スポーツ推進月間」と定め、親子を対象とした体験講習会やスポーツ教室等を総合型スポーツクラブと近隣小学校等が連携して実施します。
25	B	1	ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進	ア	働き盛り・子育て世帯のスポーツの更なる推進	ライフステージに応じたスポーツの情報発信	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	ライフステージに応じたスポーツの推進のため、対象者に合ったスポーツの取組みや各種イベント等の情報を「見つけやすく」「わかりやすく」発信します。
26	B	1	ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進	イ	総合型地域スポーツクラブに対する支援	(総合型地域スポーツクラブに対する支援)	362	1,067	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	総合型地域スポーツクラブや市町村の課題を捉え、ニーズに合った形態での集会・研修会を開催し、設立支援・自立活性化支援を行います。また、運営協議会では、広域スポーツセンター事業の課題について検討し、総合型地域スポーツクラブを中心とした地域コミュニティづくりと県民のスポーツ活動の推進を図ります。
27	B	1	ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進	ウ	シニア・スポーツの推進	老人クラブでのシニアスポーツ推進	7,695	6,800	高齢者福祉課	地域活動推進班	千葉県老人クラブ連合会が実施する事業に対して助成するとともに、市町村の老人クラブ連合会や個々の老人クラブの活動を支援するために市町村への間接補助を行います。県老人クラブでは、シニア・スポーツとして、ゲートボールやグランドゴルフ等のスポーツ大会の地区予選及び県大会を県内約10ヶ所で開催し、優秀な成績を修めた人を、全国健康福祉祭(ねんりんピック)に派遣する県の代表として推薦します。
28	B	1	ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進	ウ	シニア・スポーツの推進	ねんりんピックへの選手団派遣	4,918	18,020	高齢者福祉課	地域活動推進班	令和4年度の全国健康福祉祭(ねんりんピック)は、第34回 神奈川大会で、11月12日～11月15日までの4日間開催されます。世代間・地域間の交流を深め、本県の高齢者スポーツを推進します。
29	B	1	ライフステージに応じたスポーツ習慣の定着と健康の増進	ウ	シニア・スポーツの推進	千葉県福祉ふれあいプラザにおける介護予防に資する運動の場の提供	93,700	93,500	高齢者福祉課	地域活動推進班	千葉県福祉ふれあいプラザの介護予防トレーニングセンターにおいて、高齢者も使用しやすい運動機器や専門のスタッフを配置し、利用者一人ひとりに合った運動プログラムを提供し、運動支援を行います。また、多くの高齢者が利用できるよう、介護予防トレーニングセンターについて、ホームページやポスター等で広く周知します。
30	B	2	多様化するスポーツライフの充実・発展	ア	健康ちば21(第2次)の推進に係る各種啓発事業	(健康ちば21(第2次)の推進に係る各種啓発事業)	270	965	健康づくり支援課	健康ちば推進班	・指導者の技術指導力向上を目的として実施している「健康体力づくり指導者研修会」は、より多くの専門職に参加してもらうため、オンデマンド配信等Webを活用した方法で行います。 ・日常生活の中で手軽にできる運動について、「WORK+10(ワークプラステン)」リーフレットの配布及びホームページでの啓発・普及を行います。 ・各市町村独自のウォーキングマップ及び体操についてホームページを通じた情報提供を行います。

R4 取組の実績	R4 取組の成果・課題	R5 取組の見通し
県立下総高等学校、県立茂原樟陽高等学校を支援校に、成田市立下総みどり学園、茂原市立茂原小学校、茂原市立萩原小学校が参加校として実施	支援校である高等学校の圃場を活用し、米や野菜などの作付けから収穫までを高校生と小中学生とが交流しながら活動することができました。また、高校生が参加校に出向き、収穫した野菜の調理実習を共に行うなど、年間を通じて体験活動を展開することができました。 課題としては、作付けから収穫までのそれぞれが天候に左右されるため、予定を変更せざるを得ないことがあり、年度初めの段階でより計画的に進められるようにしていきます。	県立流山高等学校、県立清水高等学校を支援校に、流山市立西初石小学校、流山市立西初石中学校、野田市立北部小学校、野田市立七光台小学校が参加校として実施
約620施設で実施	各市町村内にある単独調理場、共同調理場及び関係県立学校の620施設で千産千消デーが実施されました。	約620施設で実施予定
各学校における学校だよりや給食だより等の発行をはじめ、食育の啓発に関する情報を各自治体からも発信	各学校、調理場から「食」に関する情報を給食だよりや食育だより、ホームページ等を活用しながら保護者に対して提供しました。	各学校における学校だよりや給食だより等の発行をはじめ、食育の啓発に関する情報を各自治体からも発信
県内7か所で「スポーツで元気いっぱい！親子体験イベント」等を実施	働き盛り・子育て世代が、スポーツに親しみ、運動習慣の定着を図るきっかけとなることを目的として、8月末から11月末に「スポーツ推進月間」として、親子を対象とした体験講習会やスポーツ教室等を総合型スポーツクラブと近隣小学校等が連携して実施しました。	県内数か所で「スポーツで元気いっぱい！親子体験イベント」等を実施予定
スポーツに関する情報の発信	教育委員会から知事部局として移管されたことに伴い、コーナーも移され、生涯スポーツ推進のため、各種イベント等の情報を発信しています。	スポーツに関する情報の発信
総合型地域スポーツクラブ連絡協議会への積極的な参加及び設立希望のある地域の市町村と協力し、クラブアドバイザー派遣等の支援	総合型地域スポーツクラブや市町村の課題を捉え、12月3日に情報交換会を開催し、設立支援・自立活性化支援を行いました。設立支援として市川市や市原市、東金市、野田市を訪問しています。 今後、運営協議会では、広域スポーツセンター事業の課題について検討し、総合型地域スポーツクラブを中心とした地域コミュニティづくりと県民のスポーツ活動の推進を図ります。	総合型地域スポーツクラブ連絡協議会への積極的な参加及び設立希望のある地域の市町村と協力し、クラブアドバイザー派遣等の支援
千葉県老人クラブ連合会及び市町村に対し補助金を交付	千葉県老人クラブ連合会が実施する事業に対して助成するとともに、市町村の老人クラブ連合会や個々の老人クラブの活動を支援するために市町村への間接補助を行いました。 県老人クラブ連合会では、シニア・スポーツとして、ゲートボールやグラウンドゴルフ等のスポーツ大会の地区予選及び県大会を県内10地区で開催し、優秀な成績を取めた人を、全国健康福祉祭(ねんりんピック)に派遣する県の代表として推薦しました。	千葉県老人クラブ連合会及び市町村に対し補助金を交付
・開催地: 神奈川県 ・種目数: 32種目 ・開催日: 令和4年11月12日～15日 ・参加選手数: 206人	令和4年度の全国健康福祉祭(ねんりんピック)は、第34回 神奈川大会で、11月12日～11月15日までの4日間開催されました。世代間・地域間の交流を深め、本県の高齢者スポーツを推進しました。	・開催地: 愛媛県 ・種目数: 29種目(予定) ・開催日: 令和5年10月28日～31日
介護予防トレーニングセンターの運営 ・年間利用者: 26,405人	千葉県福祉ふれあいプラザの介護予防トレーニングセンターにおいて、高齢者も使用しやすい運動機器や専門のスタッフを配置し、利用者一人ひとりに合った運動プログラムを提供し、運動支援を行いました。 また、多くの高齢者が利用できるよう、介護予防トレーニングセンターについて、ホームページやポスター等で広く周知しました。	介護予防トレーニングセンターの運営
・「健康・体力づくり指導者研修会」をオンデマンド配信等で実施 ・手軽にできる運動についてホームページを通じた普及・啓発を実施	日常生活の中で手軽にできる運動について「WORK+10(ワークプラステン)」リーフレットの増刷を行い、43市町村等に対し計16,310部配布し、併せてホームページでの啓発・普及を行いました。 また、ロコモティブシンドローム予防及びフレイル予防を普及啓発できる人材育成として、個々の身体の状態に合わせた適切な運動指導技術の向上を図るため、10月3日～11月4日にかけてオンデマンド形式にて健康・体力づくり指導者研修会の開催し、127名の申し込みがありました。 また、各市町村独自の体操について、県ホームページに現在33市町の42種類の体操について情報提供しています。	・個々の身体の状態に合わせた適切な運動指導技術の向上を図るため、11月頃、オンデマンド形式にて健康・体力づくり指導者研修会の開催を予定 ・ホームページやリーフレットの配布を通じて、ロコモティブシンドロームやプラステンなどの周知啓発を実施

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R4決算額 (千円)	R5予算額 (千円)	担当課	室・班	取組の概要
31	B	2	多様化するスポーツライフの充実・発展	イ	情報共有システムの構築と情報発信	情報共有システムの構築	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	市町村の生涯スポーツ担当者研修会において、各地域の指導員の資質力向上、ライフステージに合わせたスポーツ実施方法等について理解を深めるとともに、各地域の好事例を共有します。 また、総合型地域スポーツクラブの研修会等において、クラブの取組状況や問題点を共有し、県内における活動の活性化を図ります。
32	B	2	多様化するスポーツライフの充実・発展	イ	情報共有システムの構築と情報発信	スポーツイベント・多様なスポーツ・スポーツ施設等の情報発信	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	県民が様々な側面からスポーツを知ることができるよう、イベントの最新情報や家庭でできる運動実施例等について、各種媒体を通じて発信します。 また、スポーツに関する情報を「見つけやすく」「わかりやすい」情報提供するため、コンテンツの充実を図り、最新情報が常に提供できるよう更新作業に努めます。
33	C	1	パラスポーツの推進	ア	共生社会に向けたアプローチの推進	特別支援学校におけるパラスポーツ推進事業	385	186	特別支援教育課	教育課程指導室	特別支援学校の体育施設及びパラスポーツの用具の貸出し、各地区の特別支援学校の取組状況やパラスポーツの出前授業の案内と併せて、競技方法やルール解説を掲載したパンフレットを制作し、配布します。
34	C	1	パラスポーツの推進	ア	共生社会に向けたアプローチの推進	パラアスリート等による学校訪問の実施	5,445	11,855	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	パラスポーツを通じて児童・生徒の障害への理解を深め、障害のある人もない人もお互いを認め合う共生社会の実現を目的として、県内の小中学校にパラアスリート等を派遣し、各種講演や体験会を実施します。
35	C	1	パラスポーツの推進	ア	共生社会に向けたアプローチの推進	パラスポーツフェスタの開催	6,131	7,500	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	パラスポーツを広く県民に周知し、障害のある・なしに関わらず様々な方がパラスポーツを通じて交流し、障害への理解を図るため、「パラスポーツフェスタ」を開催し、パラスポーツの体験会や対抗戦を実施します。
36	C	1	パラスポーツの推進	イ	パラスポーツ参加人口の拡大	パラスポーツ競技体験会への支援	14,078	15,000	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	障害者スポーツ競技団体の活性化や競技人口等の増加を図るため、各競技団体等が競技の普及のために実施する体験会等に対し助成を行います。
37	C	1	パラスポーツの推進	イ	パラスポーツ参加人口の拡大	市町村地域で実施する取組への支援	9,309	12,200	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	市町村や団体等が、地域の大学や障害者施設、クラブチーム等と連携し、パラスポーツ大会や体験会、教室等を主体的に取り組める体制を築くことを目的として、コーディネーターを派遣し、スポーツの場の掘り起こしや組織づくりを行うとともに、体験会等を開催できるように促します。
38	C	1	パラスポーツの推進	イ	パラスポーツ参加人口の拡大	指導者講習会・研修会の充実	1,875	1,875	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	障害者のスポーツ参加のきっかけ作りを支援し、健康や安全管理に配慮した指導及びスポーツの楽しさを伝える役割を担う初級障がい者スポーツ指導員を養成するため、「初級障がい者指導員養成講習会」を実施します。 また、初級障がい者スポーツ指導員の有資格者を対象に、フォローアップ研修として「障がい者スポーツ指導者研修会」を実施します。
39	C	1	パラスポーツの推進	イ	パラスポーツ参加人口の拡大	パラスポーツの広報の強化	6,980	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	県民のパラスポーツに対する理解を深めるとともに、障害のある人のスポーツに取り組む意欲を喚起することを目的として、パラスポーツ普及・啓発用の映像及びリーフレットの制作を行います。 また、ちば県民だより等の県の広報ツールを活用し、パラスポーツの広報を行います。
40	C	1	パラスポーツの推進	ウ	障害のある人がスポーツに親しみやすい環境整備の推進	障害者スポーツ大会等のイベント開催及び選手団の派遣	54,509	63,435	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	・知的障害のある人とその支援者等が一堂についで、スポーツを通じて体力の増進と親睦を図り、併せて社会の人々から多くの支援と理解を得ることを目的として、玉入れ、ハンパ競走などのレクリエーション大会として、「手をつなぐスポーツのつどい」を実施します。 ・障害者スポーツの振興を図り、障害のある人の自立と社会参加の推進に寄与することを目的として、関係団体等と連携し、陸上競技を中心として、ほか11競技の千葉県障害者スポーツ大会を実施します。 ・全国障害者スポーツ大会へ千葉県代表選手団を派遣します。

R4 取組の実績	R4 取組の成果・課題	R5 取組の見通し
市町村の生涯スポーツ担当者研修会及び総合型地域スポーツクラブ養成講座において、事例等の情報共有を実施	市町村の生涯スポーツ担当者研修会において、令和4年度から組織改編があり、生涯スポーツ振興課生涯スポーツ室の事業内容について説明しました。 課題としては、ZOOMでの開催だったため、各市町村同士でのディスカッションができなかったことが挙げられます。	市町村の生涯スポーツ担当者研修会及びクラブマネージャー養成講座等を通じて、事例等を情報共有
県民だよりや千葉県ホームページなどを活用し、スポーツイベント等の情報を発信	今年度は、教育委員会から生涯スポーツ振興課へ移管したことに関して、ホームページの中身の精査を行いました。スポーツに関する情報を「見つけやすく」「わかりやすい」情報提供するため、コンテンツの充実を図り、最新情報が常に提供できるよう更新作業を進めています。	県民だよりや千葉県ホームページなどを活用し、スポーツイベント等の情報を発信
「バラスポーツ紹介パンフレット」15,000部配布	バラスポーツを通じた共生社会の推進のために、県立特別支援学校の取組やバラスポーツ用具の貸出し、出前授業等を紹介するパンフレットを作成し、県内市町村や関係機関へ配布しました。	各地区のバラスポーツ取組を紹介したパンフレットを配布
県内の小中学校のうち、各教育事務所管内から計18校を選定し、「バラスリット等学校訪問事業」を実施	県内公立小中学校18校に、車いすバスケットボールや車いすラグビー、パラバレーボール(座位)のアスリート等を派遣し、講演会や体験会を開催しました。 アスリートとの触れ合いや競技への理解により、児童・生徒の障害への理解を深めることができました。	県内の小中学校のうち、各教育事務所管内から計18校及び特別支援学校12校を選定し、「バラスリット等学校訪問事業」を実施予定
9月に千葉ポートアリーナで「バラスポーツフェスタちば」、12月にキッコーマンアリーナで「バラスポーツフェスタとうかつ」を開催	「バラスポーツフェスタちば」では、15競技を実施し、延べ3,231名が参加し、「バラスポーツフェスタとうかつ」では、5競技を実施し、延べ597名が参加しました。 障害のある方の参加率が低い状況にあり、今後さらに障害のある方が参加しやすいイベントとなるよう、実施方法や申し込み方法を検討していく必要があります。	9月に千葉ポートアリーナで「バラスポーツフェスタちば」、12月に柏市中央体育館で「バラスポーツフェスタとうかつ」を開催予定
参加者数が40人以上の体験会を実施する8団体及び40人未満の体験会を実施する8団体に助成金を支出	千葉県内の障害者スポーツ競技団体16団体が開催する体験会等に対して、費用の助成を行いました。	参加者数が40人以上の体験会を実施する8団体及び40人未満の体験会を実施する8団体に助成金を支出
コーディネーター派遣事業として、5障害福祉圏域、スポーツ拠点づくり支援事業として、1団体にコーディネーターを派遣	4市、2団体の計6か所にコーディネーターを派遣し、体験会や教室の開催の支援を行いました。 コーディネーターの活用後も、市町村や団体が主体的に体験会や教室を継続して実施できるように、コーディネーターと市町村が深く関わりながら体験会や教室を実施していく必要があります。	コーディネーター派遣事業として、5市町村、2団体にコーディネーターを派遣予定
障害者スポーツ指導者養成講習会を2回、初級障がい者指導者養成講習会1回開催	公益財団法人日本バラスポーツ協会公認の初級障がい者スポーツ指導員を養成するため、「初級障がい者スポーツ指導者養成講習会」を9月と1月の年2回開催し、約68名を養成しました。 また、障がい者スポーツ指導員をはじめ、障害のある人の活動を支える方のスキルアップのため、「障害者スポーツ指導者研修会」を5月に開催しました。	バラスポーツ指導員養成講習会を2回、初級バラスポーツ指導員養成講習会を1回開催
バラスポーツ普及・啓発用映像及びリーフレットの制作	バラスポーツ普及・啓発用の映像及びリーフレットにおいて、ポッチャ、フライングディスク、陸上、水泳、車いすバスケ、パラバドミントンの計6競技を紹介し、これからバラスポーツを始めた方に向けて、周知を行いました。 また、ちば県民だよりにおいてバラスポーツ競技団体による体験会の情報を掲載し、千葉日報特集において車いすテニス、パラ卓球、パラバレーボール(座位)の紹介を行いました。	制作したバラスポーツ普及・啓発用映像及びリーフレットを活用し、バラスポーツの広報を行う
・レクリエーション大会「手をつなぐスポーツのつどい」は中止 ・5月に千葉県障害者スポーツ大会を開催 ・10月に栃木県で開催された第22回特別全国障害者スポーツ大会へ選手団を派遣	3年ぶりに「千葉県障害者スポーツ大会」を本格開催し、計2,989名が参加しました。 また、3年ぶりに「全国障害者スポーツ大会(いちご一会とちぎ大会)」が栃木県で開催され、8競技、136名の選手団を派遣し、個人競技の金メダル獲得が55個、銀メダルが29個、銅メダルが14個となり、金メダル獲得数は全国第4位の好成績となりました。	・9月頃にレクリエーション大会「手をつなぐスポーツのつどい」を実施 ・5月から千葉県障害者スポーツ大会を開催 ・10月に鹿児島県で開催される第23回特別全国障害者スポーツ大会へ選手団を派遣予定

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R4決算額(千円)	R5予算額(千円)	担当課	室・班	取組の概要
41	C	1	パラスポーツの推進	ウ	障害のある人がスポーツに親しみやすい環境整備の推進	パラスポーツ組織の整備	9,236	9,800	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	県内の障害者スポーツ選手を輩出するため、競技団体が少なく、既存組織を活用した選手の育成・支援が困難であること等を踏まえ、障害者が競技に参加できる環境を作り、競技体験会を実施するとともに、幅広く有望選手を掘り起こすための強化・支援を行います。
42	C	1	パラスポーツの推進	ウ	障害のある人がスポーツに親しみやすい環境整備の推進	千葉県障害者スポーツ・レクリエーションセンターの活用	22,405	22,689	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	障害のある人のスポーツ・レクリエーション活動の拠点施設として、障害者スポーツ・レクリエーションセンターの施設の貸出を行います。また、センター独自の教養講座やセンター利用者による交流会等を実施し、障害のある人の参加機会の充実を図ります。
43	C	1	パラスポーツの推進	ウ	障害のある人がスポーツに親しみやすい環境整備の推進	千葉障がい者スポーツ指導者協議会との連携	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	障がい者スポーツ指導者の活動の場づくりを推進するため、千葉県内における障がい者スポーツ指導者の統括団体である千葉障がい者スポーツ指導者協議会との連携を行います。
44	C	2	パラアスリートへの強化・支援の推進	ア	パラ競技組織の体制整備の推進及びパラスポーツ選手の掘り起こしと育成	パラ競技組織の支援体制の充実	9,236	9,800	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	C-1「パラスポーツ組織の整備」に記載
45	C	2	パラアスリートへの強化・支援の推進	ア	パラ競技組織の体制整備の推進及びパラスポーツ選手の掘り起こしと育成	競技人口の増加に向けた取組	4,842	5,200	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	C-1「パラスポーツ競技体験会への支援」に記載
46	C	2	パラアスリートへの強化・支援の推進	イ	パラアスリートの競技力強化の推進	合宿・遠征等への強化・支援	24,984	38,000	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	海外・国内の遠征や強化合宿、競技用具の整備、ジュニアナショナルチームの選考会や全国大会への派遣、運動能力測定や医療費助成、ドクターやトレーナーの派遣等の医・科学サポート等、パラリンピック出場に向けた強化活動を支援します。
47	D	1	人材の育成	ア	スポーツ指導者の養成・資質の向上	指導者養成講習会の実施	722	845	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	地域のスポーツ指導者養成を目的として、生涯スポーツ公認指導員やスポーツリーダー、クラブマネージャー、公認障害者スポーツ指導者の講習会等を実施します。研修会においては、新しい生活様式における安心安全なスポーツの楽しみ方や「する・みる・ささえる」スポーツを更に推進していくため、スポーツの価値を伝えることの重要性を発信します。
48	D	1	人材の育成	ア	スポーツ指導者の養成・資質の向上	指導者の資質の向上の推進	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	各競技団体や関係機関と協力しながら、指導者の養成・確保が促進されるよう組織的な取組を行います。また、スポーツ・インテグリティの推進・促進のために、若手指導者の資質向上を目的とした、若手指導者養成研修を支援します。
49	D	1	人材の育成	イ	表彰制度の活用	要項や受賞者紹介等、表彰制度の周知	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	スポーツ振興及び県民のふるさと意識の高揚に資することを目的として、千葉県県民栄誉賞表彰要綱に準じ、スポーツ活動を通じ、広く県民に敬愛され、社会に明るい希望と活力を与え、るとともに千葉県の名を高めることに顕著な功績のあった者について表彰します。
50	D	1	人材の育成	イ	表彰制度の活用	千葉県知事表彰	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	スポーツ振興及び県民のふるさと意識の高揚に資することを目的として、千葉県県民栄誉賞表彰要綱に準じ、スポーツ活動を通じ、広く県民に敬愛され、社会に明るい希望と活力を与え、るとともに千葉県の名を高めることに顕著な功績のあった者について表彰します。
51	D	1	人材の育成	イ	表彰制度の活用	生涯スポーツ功労者・生涯スポーツ優良団体の表彰	233	356	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	文部科学省において、地域又は職場におけるスポーツの健全な普及及び発展に貢献し、地域におけるスポーツの振興に顕著な成果を上げたスポーツ関係者及びスポーツ団体について、都道府県ごとに決められた枠数の推薦を行います。表彰者が決定後、国において表彰式を実施します。

R4 取組の実績	R4 取組の成果・課題	R5 取組の見直し
東京オリンピック・パラリンピック後の障害者スポーツの普及・振興のため、障害者競技組織を継続的に設置し、支援体制の強化	東京パラリンピック及びパラリンピック後の障害者スポーツの振興、普及啓発活動のため「パラスポーツ部会」を継続設置し、支援体制の強化を図りました。また、有望選手の掘り起こしを行いました。	東京オリンピック・パラリンピック後の障害者スポーツの普及・振興のため、障害者競技組織を継続的に設置し、支援体制の強化
障害者スポーツ・レクリエーションセンターの施設の貸出やセンター独自の教養講座、センター利用者による交流会等を実施	障害者スポーツ・レクリエーションセンターの施設の貸出や教養講座等を実施し、障害者の参加機会の充実を図りました。9月末時点で、体育室は8,091名(うち障害者3,217名)、多目的室は3,364名(うち障害者1,055名)、音楽室は2,096名(うち障害者1,477名)、教養文化室は1,811名(うち障害者411名)の利用がありました。	障害者スポーツ・レクリエーションセンターの施設の貸出やセンター独自の教養講座、センター利用者による交流会等を実施
5月4日に、千葉障がい者スポーツ指導者協議会と共催で、「千葉県障がい者スポーツ指導者研修会」を開催	障がい者スポーツ指導員が活動できる場所がない現状があるため、障がい者スポーツ指導員が活動でき、指導員の技能を生かせる体験会や教室をより開催していく必要があります。	5月4日に、千葉障がい者スポーツ指導者協議会と共催で、「千葉県障がい者スポーツ指導者研修会」を開催
強化指定による支援 ・選手:72名 ・チーム:11チーム	海外・国内の遠征や強化合宿、競技用具の整備、ジュニアナショナルチームの選考会や全国大会への派遣、運動能力測定や医療費助成、ドクターやトレーナーの派遣等の医・科学サポート等、パラリンピック出場に向けた強化活動を支援しました。	強化指定による支援 ・選手73名 ・チーム11チーム
・クラブマネージャー養成講習会:3回実施 ・生涯スポーツ公認指導員養成講習:6回実施	クラブマネージャー養成講習会を5月28日、6月4日、11日に実施し、8名を養成しました。生涯スポーツ公認指導員等養成講習会を7月3日、9日、10日、8月6日、7日、9月11日に行い、生涯スポーツ公認指導員4名、スポーツリーダー12名を養成しました。	各講習会の実施時期や実施方法、講座内容、募集内容等の見直しや、県民への周知方法等の検討を行います。
若手指導者養成研修会 ・参加者129名	各競技団体や関係機関と協力しながら、指導者の養成・確保が促進されるよう組織的に取り組みました。また、スポーツ・インテグリティの推進・促進のために、若手指導者の資質向上を目的とした、若手指導者養成研修を支援しました。	関係団体と連携した若手指導者養成研修会開催の支援
・佐々木朗希投手に知事表彰を授与	千葉ロッテマリーンズの佐々木朗希投手が、令和4年4月10日に行われたパシフィック・リーグ公式戦において、28年ぶりの完全試合、日本プロ野球史上における13者連続奪三振新記録や19奪三振のタイ記録を達成し、社会的に大きな話題となりました。これにより、スポーツ活動を通じ、広く県民に敬愛され、社会に明るい希望と活力を与えとともに千葉県の名を高めることに寄与したと認められるため、知事表彰を授与しました。	該当者がした場合には、関係部署と調整しながら表彰を行う
・佐々木朗希投手に知事表彰を授与	千葉ロッテマリーンズの佐々木朗希投手が、令和4年4月10日に行われたパシフィック・リーグ公式戦において、28年ぶりの完全試合、日本プロ野球史上における13者連続奪三振新記録や19奪三振のタイ記録を達成し、社会的に大きな話題となりました。これにより、スポーツ活動を通じ、広く県民に敬愛され、社会に明るい希望と活力を与えとともに千葉県の名を高めることに寄与したと認められるため、知事表彰を授与しました。	該当者がした場合には、関係部署と調整しながら表彰を行う
選考会を実施し、功労者5名、優良団体4団体の推薦を決定	各団体から基準を満たしている方々の推薦をいただきました。今年度につきましては、生涯スポーツ功労者5名、生涯スポーツ優良団体4団体が決定され、令和4年10月14日(金)に中央合同庁舎第7号館3階講堂において表彰式が行われました。	選考会を実施し、功労者4名、優良団体5団体の推薦を決定。 今後、文部科学省へ推薦。

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R4決算額(千円)	R5予算額(千円)	担当課	室・班	取組の概要
52	D	1	人材の育成	イ	表彰制度の活用	競技力向上推進本部表彰	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	国民体育大会において功績の顕著な個人又は団体を表彰します。
53	D	1	人材の育成	イ	表彰制度の活用	いきいきちばっ子コンテスト	-	-	保健体育課	学校体育班	A-3「いきいきちばっ子コンテスト」遊・友スポーツランキング「ちば」に記載
54	D	2	施設の整備と有効活用	ア	施設・設備の整備と有効活用	総合スポーツセンター施設整備事業	133,436	595,754	競技スポーツ振興課	施設・調整班	総合スポーツセンターの老朽化した庭球場クラブハウスの整備等を行います。
55	D	2	施設の整備と有効活用	ア	施設・設備の整備と有効活用	総合スポーツセンター体育館整備事業	6,064	158,678	競技スポーツ振興課	施設・調整班	体育館の建替に向け、整備検討を進めていきます。
56	D	2	施設の整備と有効活用	ア	施設・設備の整備と有効活用	公園施設長寿命化対策支援事業	723,180	942,241	公園緑地課	県立公園室	県立都市公園の施設について、事後的な維持管理から、予防的な維持管理への転換を図るため、千葉県公園施設長寿命化計画に基づく施設の更新等を行う。
57	D	2	施設の整備と有効活用	ア	施設・設備の整備と有効活用	県立学校体育施設開放事業	1,807	2,100	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	県民の生涯スポーツの推進及び県内のスポーツの普及・振興を図るため、県立学校の体育施設を開放し、県民に広くスポーツをする機会と場所を提供します。また、各開放校の課題・問題・要望等を把握し、「開放校が開放しやすく」「利用者相互が利用しやすい」環境を整備することにより開放を促進し、地域スポーツの推進を図ります。
58	D	3	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	ア	総合型地域スポーツクラブに対する支援	(総合型地域スポーツクラブに対する支援)	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	B-1「総合型地域スポーツクラブに対する支援」に記載
59	D	3	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	ア	総合型地域スポーツクラブに対する支援	パラスポーツへの取組を推進	362	1,067	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	パラスポーツの充実・発展を図り、パラスポーツに取り組む総合型スポーツクラブの事業について、千葉県県障がい者スポーツ協会等と連携して支援します。
60	D	3	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	イ	情報共有と発信の推進	スポーツ関係団体との情報共有と情報発信の推進	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	県スポーツ協会、県スポーツ推進委員運動会、県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、県レクリエーション協会、県障がい者スポーツ協会等との情報共有・情報発信を行うことで、連携の構築を図ります。
61	D	3	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	イ	情報共有と発信の推進	県スポーツ施設指定管理団体への情報提供	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	B-2「スポーツイベント・多様なスポーツ・スポーツ施設等の情報発信」に記載
62	D	3	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	ウ	体育・スポーツ関係団体との連携・協同	千葉県スポーツ協会の充実と発展	7,383	7,383	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	各種事業の推進や事業成果の把握等が効率的に推進できる体制の整備・充実を、市町村や関係団体と連携して支援します。

R4 取組の実績	R4 取組の成果・課題	R5 取組の見直し
・優秀競技団体14団体 ・優秀選手90名 ・優秀監督25名	第77回国民体育大会において功績の顕著な個人及び団体を表彰しました。	天皇杯または皇后杯入賞を果たした競技団体の他、選手及び監督の表彰
		A-3「いきいきちばっ子コンテスト」遊・友スポーツランキングちば」に記載
庭球場クラブハウスの解体工事の着手	総合スポーツセンター庭球場クラブハウス解体工事を実施しました。また、多くの施設で老朽化が進んでいる為、計画的に施設の改修等を実施しております。	・庭球場クラブハウスの新築工事 ・老朽化が進んでいる施設については、計画的に改修等を行う
基本設計委託契約の締結	体育館建築工事に係る基本設計業務委託契約を締結し、基本設計に着手しました。	基本設計を実施
計画に基づく施設の更新に加え、令和3年度に見直しを実施した各県立公園の長寿命化計画に基づき、県全体の長寿命化計画の見直しを実施	千葉県公園施設長寿命化計画に基づき、計画的に施設の更新を行いました。	管理する施設の定期点検を確実に実施するとともに、長寿命化計画に基づき、効率的・効果的に維持修繕を実施
開放希望のあった県立学校68校を開放校として指定し、開放事業を実施	68校が開放校として事業を進め、県民からのスポーツ活動の場の確保の問い合わせが多く、場の提供をにつなげることができました。一方で、教員の働き方改革の中、各県立学校から当事業による負担も声があがってきているため、課題解決に向けて取り組んでいく必要があります。	開放希望のあった県立学校71校を開放校として指定し、開放事業を実施
総合型スポーツクラブとしてスポーツ庁から事業委託を受けているスマイルクラブを中心に取組を推進	総合型スポーツクラブとしてスポーツ庁から事業委託を受けているスマイルクラブでは、昨年度に引き続き、特別支援学校や柏市等の小学校を中心に、バラスポーツ体験の推進を行いました。また、千葉県総合スポーツセンターや千葉県立柏の葉公園の運動施設を調査し、バリアフリーに向けた事業を進めています。	総合型スポーツクラブとしてスポーツ庁から事業委託を受けているスマイルクラブを中心に取組を推進
各関係団体と情報共有	指導者養成や表彰関係、部活動の地域移行に関すること等、県スポーツ協会、県スポーツ推進委員連合会、県総合型地域スポーツクラブ連絡協議会、県レクリエーション協会、県障がい者スポーツ協会等との情報共有・情報発信を行い、連携を図りました。	各関係団体との情報共有
千葉県スポーツ協会実施事業支援	県スポーツ協会との連携を維持・強化するため、平成23年度より県スポーツ科学センターに分室を設置しています。各種事業の推進や事業成果の把握等が効率的に推進できる体制の整備・充実に努め、市町村や関係団体と連携した支援を行いました。	千葉県スポーツ協会実施事業支援

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R4決算額 (千円)	R5予算額 (千円)	担当課	室・班	取組の概要
63	D	3	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	ウ	体育・スポーツ関係団体との連携・協同	千葉県スポーツ推進委員連合会の充実	2,382	2,382	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	市町村教育委員会が委嘱するスポーツ推進委員等で組織される地域スポーツ推進の中核団体であり、地域住民と行政を繋ぐコーディネーターとしての役割を担っています。研究大会や指導者研修会の開催を通じて、スポーツ推進委員の資質向上等を図ります。
64	D	3	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	ウ	体育・スポーツ関係団体との連携・協同	学校体育団体の充実	38,309	49,395	保健体育課	学校体育班	学校体育・スポーツの普及と振興を図るため、学校体育関係団体が行う事業に要する経費を助成します。
65	D	3	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	ウ	体育・スポーツ関係団体との連携・協同	千葉県レクリエーション協会の充実	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	スポーツ・レクリエーションの総合的な普及・振興により、県民の心身の健全な発達と明るく豊かな社会生活づくりを図るため、指導者の育成や資質向上等活動の充実を図ります。
66	D	3	誰もがスポーツに参加できる組織基盤の充実・発展	ウ	体育・スポーツ関係団体との連携・協同	千葉県障がい者スポーツ協会との連携	56,384	65,310	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	千葉県内における障害のある人によるスポーツの振興と健康の維持増進を図るため、協会と連携し、障害者スポーツ指導者養成事業、千葉県障害者スポーツ大会開催事業、全国障害者スポーツ大会派遣事業、手をつなぐスポーツのつどい開催事業を実施します。
67	E	1	選手の発掘・育成・強化及び指導者の養成・資質向上	ア	国民体育大会入賞に向けた選手強化	国体選手強化・サポート事業	107,720	108,180	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	国民体育大会において男女総合(天皇杯)入賞、女子総合(皇后杯)入賞の成績を収めるため、本県国体代表チーム・選手の継続的・計画的な強化活動を推進します。
68	E	1	選手の発掘・育成・強化及び指導者の養成・資質向上	イ	未来のアスリートの発掘・育成・強化	ちばジュニア強化事業	66,030	67,930	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	ジュニア層(原則小学生～高校生)を対象に素質のある選手の早期発掘と年齢・競技種目等に応じた計画的・継続的指導を行い、未来のアスリートの発掘・育成・強化や指導者の養成・資質向上を図るとともに地域に根ざした競技の推進を目指します。
69	E	1	選手の発掘・育成・強化及び指導者の養成・資質向上	イ	未来のアスリートの発掘・育成・強化	WPN(ワールドクラス・パスウェイ・ネットワーク)の活用	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	独立行政法人日本スポーツ振興センターと連携し、選手の発掘・育成に関するあらゆる情報の収集や共有をはじめ、会議での指導助言、研修会の開催等の活動を通じて、県内代表選手から世界で活躍する選手への道筋を構築していきます。
70	E	1	選手の発掘・育成・強化及び指導者の養成・資質向上	ウ	世界で活躍する選手の強化・支援	オリンピックアスリート強化・支援事業	4,617	12,000	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	国体競技ではないが、オリンピックにて実施される競技・種目のトップ選手への支援を行い、オリンピックにおける本県ゆかりのメダリストを輩出することで、県内の競技力の更なる充実を図るとともに、県民に夢と感動を届けます。
71	E	1	選手の発掘・育成・強化及び指導者の養成・資質向上	エ	指導者の養成・確保・資質向上と適正配置	(指導者の養成・確保・資質向上と適正配置)	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	庁内の関係部署と協議をし、指導者確保と適正配置の具体策を検討します。併せて、地域の核となる運動種目に特化した部活動の在り方について検討を進めます。
72	E	2	競技力向上のための環境整備	ア	競技用具等整備事業	(競技用具等整備事業)	6,800	6,800	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	選手強化に必要な用具等を整備し、選手が高いパフォーマンスを発揮するための環境を整備します。

R4 取組の実績	R4 取組の成果・課題	R5 取組の見通し
研究大会や指導者研修会を開催し、推進委員の資質向上を図るとともに、令和6年度に千葉県で開催される関東研究大会の準備委員会を設立	今年度は、新型コロナウイルス感染症の対策を講じ、本連合会主催事業は、すべて予定通り開催できました。各事業とも参加者から好評で、研修会等で得た内容を各地域に持ち帰り、共有することにつながっています。次年度に向け県連合会としてニューノーマルな形が構築できた1年となりました。また、令和6年度の関東研究大会に向けて実行委員会が立ち上がり、企画・準備を進めております。課題としては、各市町村との連絡調整の方法をよりスムーズにできるように検討中です。	研究大会や指導者研修会を開催し、推進委員の資質向上を図るとともに、令和6年度に千葉県で開催される関東研究大会の準備を進める
千葉県高等学校体育連盟事業補助金 千葉県小中学校体育連盟事業補助金 千葉県特別支援学校体育連盟事業補助金 全国高等学校野球大会派遣事業補助金	予定通り事業が実施され、取組の目的が達成されました。	各団体において例年どおり各行事が実施され、補助金を支出する予定です。また、令和9年度全国高校総体開催に向けた準備を行います。
多様化する県民のスポーツニーズに対応できるよう、ニュースポーツ等の指導者の育成等を検討	9月より特定非営利活動法人(NPO法人)として、新たに活動を開始できました。県内の大学を中心に「若手人材育成事業」を展開した結果、千葉県レク大会に多くの学生が参加し、プー受けを持ってくれました。また、諸会議は書面会議だけでなく、対面での会議も開催することができました。レク・インストラクター養成講習会を(公財)日本レク協会と協働事業で開催することができました。一方、課題として、今後の会議をオンラインでも実施できるようICTシステムの構築を図りたいと考えております。また、HPの充実化をさらに深めて参ります。	多様化する県民のスポーツニーズに対応できるよう、ニュースポーツ等の指導者の育成等を検討
障害者スポーツ指導者養成事業、千葉県障害者スポーツ大会開催事業、全国障害者スポーツ大会派遣事業、手をつなぐスポーツのつどい開催事業を実施	千葉県障がい者スポーツ協会と連携し、障害者スポーツの振興を目的として、障害者スポーツ指導者養成事業、千葉県障害者スポーツ大会開催事業、全国障害者スポーツ大会派遣事業、手をつなぐスポーツのつどい開催事業を実施した。	パラスポーツ指導員養成事業、千葉県障害者スポーツ大会開催事業、全国障害者スポーツ大会派遣事業、手をつなぐスポーツのつどい開催事業を実施
・国体選手強化支援 ・コーチ等の派遣	国民体育大会において、男女総合成績(天皇杯得点)入賞、女子総合成績(皇后杯得点)入賞の成績を収めるため、本県国体代表チーム・選手の継続的、計画的な強化活動を推進しました。	・国体出場選手強化支援(練習・合宿等) ・コーチ及びトレーナー等の派遣
・ジュニア選手強化・拠点強化支援 ・若手指導者養成支援 ・ジュニア強化選手の指定	ジュニア層(原則小学生～高校生)を対象に素質のある選手の早期発掘と年齢・競技種目等に応じた計画的・継続的指導を行うとともに、指導者の養成を図り、地域に根ざした競技の推進を目指した事業を実施しました。	・ジュニア選手強化支援(重点強化・拠点強化・少女強化支) ・ジュニア強化選手の指定
研修会開催等の支援 ・スポーツクライミング競技選出候補生17名	独立行政法人日本スポーツ振興センターとの連携により、WPN(ワールドクラス・パスウェイ・ネットワーク)を活用し、選手の発掘・育成に関するあらゆる情報の収集や共有をはじめ、会議での指導助言、研修会の開催等の活動を通じて、県内代表選手から世界で活躍する選手への支援を実施しました。	競技団体における研修会開催等の支援
強化指定による支援 ・選手23名	国体競技ではないが、オリンピックにて実施される競技・種目のトップ選手への支援を行い、オリンピックにおける本県ゆかりのメダリストを輩出することで、県内の競技力の更なる充実を図るため、オリンピック出場に向けた強化活動を支援しました。	強化指定による支援 ・選手35名
指導者確保と適正配置の検討	庁内の関係部署と協議し、指導者確保と適正配置の具体策と国体の成果を踏まえた、地域の核となる運動種目に特化した部活動の在り方について検討を進めました。	指導者確保と適正配置の検討
強化練習等に必要競技用具の整備 (5競技団体) ・セーリング ・ライフル射撃 ・馬術 ・ハレーボール ・スポーツクライミング	選手強化に必要な用具等を整備し、選手が高いパフォーマンスを発揮するための環境を整備しました。	強化練習等に必要競技用具の整備 (5競技団体) ・カヌー ・ライフル射撃 ・ローイング ・馬術 ・スポーツクライミング

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R4決算額(千円)	R5予算額(千円)	担当課	室・班	取組の概要
73	E	2	競技力向上のための環境整備	イ	トップチーム支援事業	(トップチーム支援事業)	7,200	7,000	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	本県において国民体育大会で活躍し、各競技の主軸となる競技力を有する顕著な企業等の運動部をトップチーム団体として指定し、その主体的な強化活動の支援を推進します。
74	E	2	競技力向上のための環境整備	ウ	公共スポーツ施設の有効活用	(公共スポーツ施設の有効活用)	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	ジュニア選手や県選抜チーム、選手が効果的・効率的に練習することができるよう、公共スポーツ施設等の優先的使用について、理解と協力を得るよう努めます。
75	E	2	競技力向上のための環境整備	エ	選手・指導者の参加条件の整備	(選手・指導者の参加条件の整備)	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	競技力向上事業の推進にあたっては、児童生徒や教員の学校教育活動に支障をきたさぬよう十分配慮しながら、所属長に理解を得られるよう努めます。
76	E	2	競技力向上のための環境整備	オ	ICTを活用した新しい強化様式の整備	(ICTを活用した新しい強化様式の整備)	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	新しい生活様式に対応したオンライントレーニングや、オンラインミーティングを行えるようICT環境を整備していきます。
77	E	3	スポーツ医・科学の積極的な活用	ア	マルチコンディショニングサポート事業	基礎能力測定・障害相談・栄養相談の実施	370	720	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	スポーツドクター・アスレティックトレーナーによる測定データ解析を実施し、指導者等にフィードバックするとともに、指導者が効果的なトレーニング方法、けがの予防策等に活用できるような知識や技能の充実を図ります。また、選手の栄養状況調査などを計画的に進め、選手、指導者、保護者等に食生活の在り方等についてサポートする体制を確立します。さらに、スポーツ科学センターの機能の充実と、より専門的な科学的データの蓄積を図ります。
78	E	3	スポーツ医・科学の積極的な活用	ア	マルチコンディショニングサポート事業	スポーツドクター・アスレティックトレーナー等の派遣	6,155	5,805	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	県スポーツ協会スポーツ医事・科学研究委員会から推薦されたスポーツドクター・アスレティックトレーナーを国民体育大会や強化活動等に派遣し、選手の健康管理、障害予防、スポーツ外傷の応急措置、リハビリテーション等に対応します。また、競技団体が独自にコンディションアップできるように支援します。
79	E	3	スポーツ医・科学の積極的な活用	ア	マルチコンディショニングサポート事業	メディカルチェックの実施	320	320	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	国体帯同スポーツドクター(公益財団法人千葉県スポーツ協会スポーツ医事・科学研究委員)により、国体参加選手が提出した健康診断票及び基本健康診断用紙のチェックを行います。その中で、禁止薬物使用の有無などについてもチェックを行い、ドーピング防止にも努めます。
80	E	3	スポーツ医・科学の積極的な活用	ア	マルチコンディショニングサポート事業	ドーピング防止啓発活動の普及	255	255	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	スポーツファーマシストを活用し、アンチドーピングについての理解を深め、ドーピング防止の教育・啓発活動を推進・促進していきます。また、国民体育大会出場選手・監督を対象とした、アンチドーピング研修・講習会を実施します。
81	E	3	スポーツ医・科学の積極的な活用	ア	マルチコンディショニングサポート事業	女性アスリート強化・支援の充実	700	900	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	女性アスリートに必要なスポーツ医・科学サポートや、コンディショニング等に関する研修・講習会、スポーツに関する相談会を実施します。また、育児との両立を図りながら、競技力の向上を可能にしていけるための環境づくりを整備していきます。
82	E	3	スポーツ医・科学の積極的な活用	ア	マルチコンディショニングサポート事業	その他の活動	150	150	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	強化練習会、強化合宿、県外遠征、招聘試合等において新型コロナウイルス感染者を発生させないために、競技団体ごとに感染防止対策マニュアルの作成及び見直しを行い、感染防止対策を支援していきます。
83	E	4	組織・調査等の充実	ア	各種会議の充実	千葉県競技力向上推進本部会議等の開催	1,200	1,200	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	計画的な強化施策を推進するために、本部会議、総務企画部会、普及育成強化部会、パラアスリート部会等を開催し、県全体で競技力向上施策の着実な具現化に努めます。

R4 取組の実績	R4 取組の成果・課題	R5 取組の見通し
強化指定による支援 ・18競技38団体	本県において国民体育大会で活躍し、各競技の主軸となる競技力を有する顕著な企業等の運動部をトップチーム団体として指定し、その主体的な強化活動の支援を推進しました。	強化指定による支援 ・18競技38団体
公共スポーツ施設の有効活用 ・県総合スポーツセンター ・県国際総合水泳場	ジュニア選手や県選抜チーム・選手が効果的・効率的に練習することができるよう、公共スポーツ施設等の優先的使用について、理解と協力を得ながら、施設の有効活用を進めました。	公共スポーツ施設の優先・有効活用 ・県総合スポーツセンター ・県国際総合水泳場
協力依頼文の送付等、協力依頼	競技力向上事業の推進にあたって、児童生徒や教員の学校教育活動に支障をきたさぬよう十分配慮しながら、所属長に競技会等への参加について、可能な限り配慮いただけるよう依頼しました。	協力依頼文の送付等、協力依頼
ICT環境の整備	新しい生活様式に対応したオンライントレーニングや、オンラインミーティングを行えるよう、ICT環境の整備に努めました。	ICT環境の整備
運動能力測定実施 ・4競技55人	千葉県スポーツ科学センターにおける測定、データ解析を実施し、選手・指導者等にフィードバックするとともに、効果的なトレーニング方法、けがの予防策等に活用できる知識や技能の充実を図りました。併せて、アスレティックトレーナーによる障害相談、管理栄養士による栄養指導、スポーツファーマシスト(薬剤師)によるドーピング防止啓発活動を行いました。さらに、スポーツ科学センターの機能の充実に努め、より専門的な科学的データの蓄積を図りました。	競技団体における運動能力測定の推進 (測定推進月間：7、8月)
トレーナー等の派遣 ・強化練習等 9競技128人 ・国体関東ブロック大会 20競技49人 ・国体本大会 21競技39人	県スポーツ協会スポーツ医事・科学研究委員会から推薦されたスポーツドクター・アスレティックトレーナーを国民体育大会や強化活動等に派遣し、選手の健康管理、障害予防、スポーツ外傷の応急措置、リハビリテーション等に対応するとともに、競技団体が独自にコンディションアップできるように支援しました。	トレーナー等の派遣 ・強化練習等 ・国体関東ブロック大会 ・国体本大会
メディカルチェックの実施 ・国体本大会 444人 ・国体冬季大会 54人	国体帯同スポーツドクター(公益財団法人千葉県スポーツ協会スポーツ医事・科学研究委員)により、国体参加選手が提出した健康診断票及び基本健康診断用紙のチェックを行いました。その中で、禁止薬物使用の有無などについてもチェックを行い、ドーピング防止にも取り組みました。	メディカルチェックの実施 ・国体本大会 ・国体冬季大会
アンチドーピング研修会 ・参加者49名 ドーピング防止講習会 ・参加者44名	スポーツファーマシストを活用し、アンチドーピングについての理解を深め、ドーピング防止の教育・啓発活動を推進・促進しました。また、国民体育大会出場選手・監督を対象とした、アンチドーピング研修・講習会を実施しました。	研修会や講演会の開催 ・アンチドーピング研修会 ・ドーピング防止研修会
国体対策委員会総会講演会 ・参加者114名 女性アスリート強化・支援講演会 ・参加者95名	女性アスリートに必要なスポーツ医・科学サポートや、コンディション等に関する研修・講習会を実施しました。また、育児との両立を図りながら、競技力の向上を可能にしていくための環境づくりの整備に努めました。	・研修会や講演会の開催 ・育児サポート支援体制の整備
感染防止対策支援	強化練習会、強化合宿、県外遠征、招聘試合等において新型コロナウイルス感染拡大を防止するため、競技団体ごとの感染防止対策マニュアルに基づいた感染防止対策を支援しました。	必要に応じて感染防止対策の支援
千葉県競技力向上推進本部会議等の開催 ・本部会議 年1回 ・総務企画部会 年1回 ・普及育成強化部会 年2回 ・パラアスリート部会 年1回	計画的な強化施策を推進するために、本部会議、総務企画部会、普及育成強化部会、パラアスリート部会等を開催し、県全体で競技力向上施策を具体的に検討しました。	各種会議等の開催 ・本部会議 ・総務企画部会 ・普及育成部会 ・パラアスリート部会

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R4決算額(千円)	R5予算額(千円)	担当課	室・班	取組の概要
84	E	4	組織・調査等の充実	ア	各種会議の充実	研修等による組織力の向上	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	ヘッドコーチやジュニア強化等の担当者会議を開催し、研修を充実させ、効率的・効果的な強化活動の展開に努めます。また、スポーツ・インテグリティ推進・促進のために、組織のコンプライアンス体制の整備と、ガバナンスの強化を図ります。
85	E	4	組織・調査等の充実	ア	各種会議の充実	国体選手選考・強化活動調査事業	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	本県競技力の現状把握、他県の戦力分析、国体代表選手団の選考等のため、競技力向上委員会を開催します。また、強化活動視察(通年)として大会会場や強化事業会場等への激励および視察を引き続き実施します。国体選手、監督、コーチの競技力把握と分析、競技団体との連携を図ります。さらに、戦力分析会議を実施し、本県競技力の現状把握や他県の強化施策の分析を行い、その結果を基に、競技団体へ指導・助言を行います。
86	E	4	組織・調査等の充実	イ	各種表彰と広報活動の充実	優秀選手及び優秀監督の表彰	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	D-3「表彰制度の活用」に記載
87	E	4	組織・調査等の充実	イ	各種表彰と広報活動の充実	広報活動の充実	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	競技力向上推進本部事業、国民体育大会の結果等のパンフレットを作成し、配布します。また、インターネット等、各種メディアを利用しての広報活動を実施します。
88	E	5	競技スポーツの充実及び好循環	ア	競技スポーツへの参加(する・みる・ささえる)の裾野拡大	(競技スポーツへの参加(する・みる・ささえる)の裾野拡大)	9,645	9,645	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	千葉県民体育大会の開催及び各競技会でのサブイベントの実施に対し、積極的支援を行っていきます。また、国民体育大会千葉県大会(国体予選)開催の充実を図っていきます。
89	E	5	競技スポーツの充実及び好循環	イ	トップアスリート等活用事業	(トップアスリート等活用事業)	1,100	1,100	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	オリンピック・パラリンピック選手や国民体育大会等で活躍したトップアスリートを講師として体育・スポーツ関係団体の活動に派遣することにより選手強化事業の成果を地域スポーツに還元するとともに、更なるスポーツの推進を図ります。
90	E	5	競技スポーツの充実及び好循環	ウ	アスリートキャリア開発	(アスリートキャリア開発)	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	国体選手等の本県への就職を支援し、スポーツキャリアを活かしたセカンドキャリアへの移行を進めるため、調査・研究、ヒアリング等を行います。
91	E	5	競技スポーツの充実及び好循環	エ	国際スポーツ交流への協力	(国際スポーツ交流への協力)	1,986	10,000	生涯スポーツ振興課	企画調整班	令和5年度から、県内で開催される国際スポーツ大会の開催に対する補助を行います。国際競技団体が主催する大会等で、5か国以上が参加し、3,000人以上の観戦が見込まれる又は小中学生1,000人以上が大会に招待され、県民向けの体験や地域住民と大会参加者の交流会など地域貢献の取組が行われる大会の経費の一部を助成することにより、地域におけるスポーツ振興、スポーツを通じた地域活性化、本県の魅力発信の契機とします。
92	E	5	競技スポーツの充実及び好循環	オ	教育・研修プログラムの推進	(教育・研修プログラムの推進)	-	-	競技スポーツ振興課	競技スポーツ班	アスリートや関係者一人一人が主体的にスポーツ・インテグリティの意義を理解し、スポーツの価値を守り、高める役割を担う者として適切に行動できるよう、専門家の協力を得ながら、主体的かつ能動的な学習を促す効果的な教育プログラムを推進・促進していきます。
93	F	1	アスリートと連携したスポーツの価値の発信	ア	トップ・プロスポーツ連携事業	ちば夢チャレンジかなえ隊派遣事業	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	A-2「ちば夢チャレンジかなえ隊派遣事業」に記載
94	F	1	アスリートと連携したスポーツの価値の発信	ア	トップ・プロスポーツ連携事業	ちば夢チャレンジ☆パスポート・プロジェクト	-	-	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	子どもたちがスポーツ選手への夢や憧れを抱くことができるよう、千葉ロッテマリーンズ、千葉ジェッツふなばし、ジェフ・ユナイテッド市原・千葉、NECグリーンロケッツ東葛、千葉セルバ等のトップ・プロスポーツチームと共同で、県内在学の小学生とその保護者を公式戦へ招待するとともに、キャリア体験プログラムを実施します。

R4 取組の実績	R4 取組の成果・課題	R5 取組の見直し
<p>国体対策委員会総会 ・参加者約130名 強化、派遣担当者会議 ・参加者約100名</p>	<p>ヘッドコーチやジュニア強化等の担当者会議を開催し、研修を充実させ、効率的・効果的な強化活動の展開に努めました。また、スポーツ・インテグリティ推進・促進のために、組織のコンプライアンス体制の整備と、ガバナンスの強化を図りました。</p>	<p>各種会議等の開催 ・国体対策委員会総会 ・強化、派遣担当者会議</p>
<p>・競技力向上委員会の開催 年14回 ・戦力分析会議の実施 年 3回</p>	<p>本県競技力の現状把握、他県の戦力分析、国体代表選手団の選考等のため、競技力向上委員会を開催しました。また、強化活動視察(通年)として大会会場や強化事業会場等への激励および視察を行い、国体選手、監督、コーチの競技力把握と分析、競技団体との連携を図りました。さらに、戦力分析会議を実施し、本県競技力の現状把握や他県の強化施策の分析を行い、その結果を基に、競技団体へ指導・助言を行いました。</p>	<p>各種会議等の開催 ・競技力向上委員会 ・戦力分析会議</p>
		<p>天皇杯または皇后杯入賞を果たした競技団体の他、選手及び監督の表彰(再掲)</p>
<p>・国体リーフレット配布数: 10,000部 ・県教委ニュース掲載回数: 年8回 ・ホームページアクセス数: 44,752件</p>	<p>競技力向上推進本部事業、国民体育大会の結果等のパンフレットを作成し、配布しました。また、インターネット等、各種メディアを利用しての広報活動を実施しました。</p>	<p>・国体リーフレット作成 ・県教委ニュース掲載 ・HPの充実</p>
<p>千葉県民体育大会 ・18市1郡開催 参加者7574名 千葉県民体育大会第二部 (国体予選) ・実施競技数40競技</p>	<p>千葉県民体育大会の開催及び各競技会でのサブイベントの実施に対し、積極的支援を行いました。また、国民体育大会千葉県大会(国体予選)開催の充実を図りました。</p>	<p>千葉県民体育大会、千葉県民体育大会第二部(国体予選)開催の充実</p>
<p>トップアスリート等活用事業 ・実施回数32回 ・講師派遣数47人</p>	<p>オリンピック・パラリンピック選手や国民体育大会等で活躍したトップアスリートを講師として体育・スポーツ関係団体の活動に派遣することにより選手強化事業の成果を地域スポーツに還元し、スポーツの推進を図りました。</p>	<p>トップアスリート等活用事業の充実</p>
<p>アスリートの就職支援の調査・研究</p>	<p>国体選手等の本県への就職を支援し、スポーツキャリアを活かしたセカンドキャリアへの移行を進めるため、調査・研究、ヒアリング等を行いました。</p>	<p>アスリートの就職支援の調査・研究</p>
		<p>レスリングの競技団体から県内で大会を開催したい意向が示されており、助成に向けて調整を行う。</p>
<p>効果的教育プログラムの推進</p>	<p>アスリートや関係者一人一人が主体的にスポーツ・インテグリティの意義を理解し、スポーツの価値を守り、高める役割を担う者として適切に行動できるよう、専門家の協力を得ながら、主体的かつ能動的な学習を促す効果的な教育プログラムを推進・促進に努めました。</p>	<p>効果的教育プログラムの推進</p>
<p>従来の5チームに、新たに2チームを加え、合計7チームにおいて、公式戦の観戦を実施</p>	<p>子どもたちがスポーツ選手への夢や憧れを抱くことができるよう、千葉ロッテマリーンズ、千葉ジェッツふなばし、ジェフ・ユナイテッド市原・千葉、NECグリーンロケッツ東葛、千葉ゼルバ、アルティール千葉等のトップ・プロスポーツチームと共同で、県内在学の小学生とその保護者を公式戦へ招待するとともに、キャリア体験プログラムを実施しました。</p>	<p>合計7チームにおいて、公式戦の観戦を実施</p>

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R4決算額(千円)	R5予算額(千円)	担当課	室・班	取組の概要
95	F	1	アスリートと連携したスポーツの価値の発信	イ	トップ・プロスポーツ連絡協議会	(トップ・プロスポーツ連絡協議会)	150	235	生涯スポーツ振興課	生涯スポーツ室	トップ・プロスポーツチームが掲げている活動拠点における地域貢献の取組に対して積極的な連携を図るため、平成24年5月にプロスポーツチームとアマチュアスポーツにより立ち上げた組織と連携し、学校や地域を繋ぐシステムの構築を目指す「千葉県トップ・プロスポーツ連絡協議会」を開催します。
96	F	2	地域資源を生かしたスポーツライフの推進と千葉の魅力発信	ア	交流機会の創出	ちばアクアラインマラソンの開催	164,116	49,000	生涯スポーツ振興課	ちばアクアラインマラソン準備室	「スポーツの振興」と「千葉県の魅力発信」を二本柱とした大会を開催し、多くの人たちに千葉県と東京湾アクアラインの魅力を知ってもらうことで、人や物の交流を基とした地域活性化を図る。さらに、これまで育んできた「おもてなしの心」と、東京オリンピック・パラリンピックの開催により改めて認識された「スポーツの持つ力と価値」を未来につないでいくことをコンセプトとし、「ちばアクアラインマラソン2022」を開催します。
97	F	2	地域資源を生かしたスポーツライフの推進と千葉の魅力発信	ア	交流機会の創出	スポーツツーリズムの推進	58,570	100,000	観光企画課	観光企画室	中長期的な観光需要を拡大するため、市町村や観光に携わる民間事業者等が実施する、宿泊客の増加や観光消費額の拡大に資する計画的で継続性のある広域的な取組に対し、経費の一部を助成します。
98	F	2	地域資源を生かしたスポーツライフの推進と千葉の魅力発信	イ	積極的な関わり促進	スポーツボランティア活動の推進	16,170	220	生涯スポーツ振興課	ちばアクアラインマラソン準備室	ちばアクアラインマラソンを「ささえる」スポーツボランティアの活動をとらえて、スポーツを支える大切さと喜びを感じ、「する・みる・ささえる」スポーツの推進を図る。
99	F	3	オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展	ア	オリンピック・パラリンピック教育の継承	心のバリアフリー教育推進事業	5,579	6,200	教育政策課	政策室	これまでのオリンピック・パラリンピックを活用した教育を無形のレガシーとして、引き続き、共生社会の形成を目指して、児童生徒がバラスポーツの楽しさ、ボランティア精神、障害のある方への理解等を身につけられるよう推進します。 (1)教員の資質向上の取組 (2)児童生徒の意識向上と家庭・地域等への普及啓発の取組 (3)更なる発展・継続するための取組
100	F	3	オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展	ア	オリンピック・パラリンピック教育の継承	特別支援学校におけるバラスポーツ推進事業	-	-	特別支援教育課	教育課程指導室	バラスポーツを推進していくことを通じて、スポーツを楽しむ経験を通じた障害への理解を深め、共生社会の実現を目指します。
101	F	3	オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展	イ	競技団体等との学校における連携事業	競技団体等と連携した学校訪問	1,660	1,700	生涯スポーツ振興課	企画調整班	東京2020大会を契機とする県内開催競技を始めとしたスポーツの普及・振興に向けて、千葉県内の学校において、競技団体と連携し、アスリートを講師役として競技説明・紹介及び競技体験を実施します。
102	F	3	オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展	イ	競技団体等との学校における連携事業	JOCオリンピック教室	1,715	2,140	生涯スポーツ振興課	企画調整班	オリンピック教育の推進を図るため、県内の公立中学校において、JOCオリンピック教室(※)を実施します。 (※)JOCオリンピック教室とは、オリンピック(オリンピック出場経験のあるアスリート)が教師役となり、自身の様々な経験を通して、生徒たちにオリンピックの価値等を伝えるとともに、この価値がオリンピックだけでなく、多くの人々が共有し、日常生活にも生かすことのできるものであることを、授業を通して学習してもらおうプログラム。
103	F	3	オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展	ウ	ホストタウン相手国等との国際理解・国際交流の促進	オランダ王国との国際交流の促進	-	-	生涯スポーツ振興課	企画調整班	国内およびアジア近郊で開催される国際大会に向けた、オランダ代表チームの事前キャンプの受入れと、その際の県民との交流事業の実施に向けた調整を行います。

R4 取組の実績	R4 取組の成果・課題	R5 取組の見直し
「千葉県トップ・プロスポーツ連絡協議会」を年2回(6月、2月)開催 バスケットボールB2リーグのアルティエリ千葉が新規加入し、合計11チームで構成	令和4年度から、アルティエリ千葉(バスケット)が新規加入し、加盟団体が全部で11団体となりました。	合計で11チームで構成される「千葉県トップ・プロスポーツ連絡協議会」を年2回(6月、2月)開催予定
令和4年11月6日(日)ちばアクアラインマラソン2022実施	「スポーツの振興」と「千葉県の魅力発信」を二本柱とした大会を開催し、多くの人たちに千葉県と東京湾アクアラインの魅力を知ってもらうことで、人や物の交流を基とした地域活性化を図る。さらに、これまで育んできた「おもてなしの心」と、東京オリンピック・パラリンピックの開催により改めて認識された「スポーツの持つ力と価値」を未来につないでいくことをコンセプトとし、「ちばアクアラインマラソン2022」を開催しました。大会は天候にも恵まれ、約1万5千人のランナーが東京湾アクアライン上を駆け抜け、完走率は過去最高の92.1%でした。	令和5年3月23日にちばアクアラインマラソン実行委員会総会を開催し、令和6年秋に次回大会開催を決定。「ちばアクアラインマラソン2024」の開催に向けて運営方法の検討やPRイベント等を開催
活用事業者数:7	中長期的な観光需要を拡大するため、市町村や観光に携わる民間事業者等が実施する、「東京2020のレガシーを活かした『外房プレミアム・サーフィンツアー』」などの継続性のある広域的な7つの取組に対し、経費の一部を助成しました。	審査会の結果を踏まえ、採択事業を決定する。
令和4年9月～10月ボランティア説明会実施 令和4年11月6日(日)ちばアクアラインマラソン2022ボランティア活動	大会へは地元自治会、企業、学生等から約5千人のボランティアが参加し、ちばアクアラインマラソンを「ささえる」スポーツボランティアの活動をとおして、スポーツを支える大切さと喜びを感じ、「する・みる・ささえる」スポーツの推進を図りました。	次回大会が令和6年秋と決定したことから、開催の準備とともに、スポーツボランティアの募集計画を検討
(1)オンラインセミナーの実施(公立学校の教職員1名以上受講) (2-1)地域拠点校を40校指定 (2-2)バラスポーツの体験等を100校実施 (3)グッドプラクティスの顕彰	(1)児童生徒、保護者、地域住民等への教育や理解の推進のため、教員の資質向上を図るオンライン研修を実施し、アンケート結果から90%以上が参考になったとの回答がありました。夏季休業中など教員が研修を行いやすい時期での実施を検討していきます。 (2)地域拠点校に小18校、中10校、県立学校9校、私立学校3校を指定し、心のバリアフリー教育を地域等へ普及することができました。 また、日本財団バラスポーツサポートセンターと連携し、県内の100校に「バラスリート」等を講師として、バラスポーツ体験や交流を行いました。学校に過度な負担の無いよう、普及啓発に取り組んでいきます。 (3)県や各校の実践内容について、Webページや県教委ニュース等で積極的に広報することができました。また、今年度の優れた実践について募集を行い、表彰することができました。	(1)オンラインセミナーの実施(公立学校の教職員1名以上受講) (2-1)地域拠点校を40校指定 (2-2)バラスポーツの体験等を100校程度実施 (3)グッドプラクティスの顕彰
(1)バラスポーツ推進のための出前授業 (2)バラスポーツ用具の整備 (3)バラスポーツ紹介パンフレットの配布	東京パラリンピック競技大会の成果をレガシーとして本県に定着させていくために、特別支援学校の児童生徒と教員が小・中学校等に向くバラスポーツの出前授業や用具貸出しを実施しました。また、バラスポーツや県立特別支援学校の取組を紹介するパンフレットを県内市町村や関係機関へ配布しました。	(1)バラスポーツ推進のための出前授業拡大 (2)地域へのバラスポーツ用具の貸出 (3)各地区のバラスポーツ取組を紹介したパンフレット配布
・フェンシング学校訪問:各教育事務所管内で1校ずつ、計5校で実施 ・サーフィン学校訪問:長生地域の小学校10校で実施 ・ブレイキン学校訪問:千葉市の小学校1校で実施	東京2020大会で県内開催したサーフィン、フェンシングの普及・振興に向けて以下のとおり学校訪問を実施しました。 サーフィン学校訪問では、千葉県で活動するプロサーファーを講師として、長生地域の小学校10校で約570名を対象に、参加児童がプールでサーフボードを使用したバドリング・スタンディングを体験する学校訪問を実施しました。 フェンシング学校訪問では、オリンピックメダリストを講師として、県内各教育事務所管内で1校ずつ、計5校の小中学校約900名を対象に、柔らかない模造剣を用いたスマートフェンシングによるフェンシング体験会を実施しました。	・フェンシング学校訪問:各教育事務所管内の小・中学校で1校ずつ、計5校で実施 ・サーフィン学校訪問:長生地域の小学校8校で実施
実施校 (1)習志野市立第六中学校 5/10-11 (2)市原市立辰巳台中学校 5/24-25 (3)千葉市立松ヶ丘中学校 6/2-3 (4)大多喜町立大多喜中学校 9/6 (5)東庄町立東庄中学校 10/12 (6)柏市立南部中学校 10/14	オリンピック教育の推進を図るため、JOCと連携し、県内公立中学校6校においてJOCオリンピック教室を実施しました。教室では、生徒達が教師役であるオリンピックの授業を通じてオリンピックの精神や価値等を熱心に学ぶ様子が見られました。	実施校 (1)栄町立栄中学校 5/11-12 (2)茂原市立南中学校 6/22-23 (3)富津市立立天羽中学校 6/28 (4)野田市立第二中学校 9/26-27 (5)船橋市立湊中学校 11/21-22 (6)千葉市立高洲中学校 11/28-29
事前キャンプ実施の意向がなかったため、取組なし	令和5年に日本国内で開催予定の国際大会について、オランダ競技団体に事前キャンプの意向を確認したところ、実施予定はないとのことでした。引き続き、事前キャンプ受入れを想定した協議を継続するとともに、特にバラスポーツ振興を目的とした交流事業実施のための調整を行ってまいります。	現時点では、事前キャンプ実施の意向なし

通番	リンク	施策番号	施策名	取組通番	具体的な取組	取組名	R4決算額 (千円)	R5予算額 (千円)	担当課	室・班	取組の概要
104	F	3	オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展	ウ	ホストタウン相手国等との国際理解・国際交流の促進	ドイツ・デュッセルドルフ市、台湾・桃園市とのスポーツ交流の継続	1,986	0	生涯スポーツ振興課	企画調整班	ドイツ・デュッセルドルフ市及び台湾・桃園市との、スポーツ交流を通じた競技力の向上や国際交流の推進を図ります。デュッセルドルフ市はテニスと卓球、桃園市は卓球について、中学・高校生以下を中心とした選抜選手の相互派遣の実現に向けた交渉・調整を行います。 (予算額は、千葉県卓球連盟が行う桃園市とのスポーツ交流事業に要する経費への補助金)
105	F	3	オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展	エ	マリンスポーツを活用した地域の魅力向上	(マリンスポーツを活用した地域の魅力向上)	9,186	10,000	生涯スポーツ振興課	企画調整班	東京2020大会を契機として、スポーツの魅力が再認識されたことを踏まえ、県内の豊かな自然を活かしたサーフィンなどのスポーツと、その地域に根差す文化や食材などの魅力を組み合わせたい験ができるようにすることで、本県でスポーツに親しむ人を増やし、地域の活性化を推進します。
106	F	3	オリンピック・パラリンピックのレガシーの継承・発展	オ	「新たなスポーツ」の周知・研究	(「新たなスポーツ」の周知・研究)	6,654	14,000	生涯スポーツ振興課	企画調整班	あらゆる人がスポーツを楽しめるよう、障害の有無や年齢等に関係なく様々な人が一緒にできるユニバーサルスポーツ、BMXやスケートボード等のアーバンスポーツ、体の動きに連動して画面上的アバターが動くバーチャルスポーツ等、新しい分野のスポーツの研究に取り組みます。

R4 取組の実績	R4 取組の成果・課題	R5 取組の見直し
<p>千葉県と台湾・桃園市との卓球国際交流事業実績 ・期間: 令和5年1月3日～1月7日 ・参加者数: 桃園市選手団計19名(選手(高校生)男女各6名、役員等7名)、千葉県選手団計91名(選手(高校生主体)男子36名、女子31名、役員等24名) ・内容: 交流練習や交流試合、学校視察等を実施</p>	<p>令和5年1月、千葉県卓球連盟が台湾・桃園市との卓球交流事業を実施し、事業経費に対する補助を行いました。ドイツ・デュッセルドルフ市からは、テニス及び卓球の交流事業について、令和5年度以降の再開に係る意向の確認があり、競技団体からも前向きな回答が得られています。事業の実施、継続のため、引き続き協議を行ってまいります。</p>	<p>千葉県卓球連盟、千葉県テニス協会による事業実施の調整及び支援を行う。</p>
<p>・協議会の開催(計4回) ・モデルルートの作成(2ルート) ・モニターツアーの実施(2回)</p>	<p>一宮町・いすみ市と連携し、サーフィンを中心に、スポーツと歴史・文化・食の魅力を組み合わせたスポーツツーリズムのモデルルートを作成しました。 作成後は紹介サイトを開設し、SNS等で広告配信をしたほか、県民だよりや県のSNS等も活用するなど、積極的に周知を行いました。</p>	<p>・サーフィン体験会の実施 ・サーフ文化発信イベントの実施</p>
<p>・「新たなスポーツ」普及促進協議会の開催(2回) ・バーチャルサイクリング県オリジナルコースの作成(4コース) ・各スポーツの体験会等の開催(ユニバ3回・アーバン3回・バーチャル7回) ・県HP、SNS等を利用した情報発信</p>	<p>「新たなスポーツ」の、情報共有や普及促進を図るため、学識経験者・スポーツクラブ関係者・メディア・競技団体関係者等を委員とする「新たなスポーツ」普及促進協議会を組織し、県HPや広報誌、ラジオ番組、SNS等で情報発信を行ったほか、アーバンスポーツやユニバーサルスポーツの体験会を開催しました。 また、バーチャルサイクリングのオリジナルコースを作成し、このコースを使用した体験会を、県内各地で開催しました。</p>	<p>・「新たなスポーツ」普及促進協議会の開催(全体協議会3回、個別部会2回×3種) ・アーバンスポーツ体験会の開催 ・アーバンスポーツマナー啓発動画の作成 ・ユニバーサルスポーツの出張体験会の開催 ・バーチャルスポーツ大会の開催 ・バーチャルサイクリングの試験設置(スポーツジム・高齢者施設・モニター宅) ・県HP、SNS等を利用した情報発信</p>